婦人運動

5月號

職業婦人社發行

第7卷 第5號

加藤政之助著

世界大觀と新日本の建設

四六版三百頁
寫眞版數葉入
定價一圓八十錢
書留送料十八錢

著者は政治生活の體驗を有すること五十年、現に貴族院議員である。權勢黨利に餘念なき當世者流を見て慨嘆措く能はず。適々昨年萬國商事會議及萬國議員同盟會議に出席旁々歐米諸國を訪れ、具に政治、經濟、產業、教育、思想の全般を觀察して歸國椽大の筆を振つて渾沌の日本に贈つたものが卽ち本書である。前半は先進諸國の公正なる現狀報告記であり、後半は新日本建設の經綸書である。

主要目次

東京市麴町區下六番町
振替東京二九六三九
平凡社

兒玉庄太郎著

偉人石川翁と其の事業

菊判七百頁美本　定價三圓五十錢　送料二十四錢

近刊豫告

羽後の石川翁は明治前半における無双の老農であり、實地指導者であつた。稼穡、適產調、救荒、勤儉貯蓄、風俗改良等の事柄、皆實踐して範を垂れ、而して全國を周遊して勸業の法を說き、經濟の道を鼓吹せられたことは一々枚擧に暇がない。農村振興の聲喧しく、且つ地方主義的な新興農學の更始期に際して本書の出づる決して偶然ではない。

東京麴町區下六番町
振替東京二九六三九
平凡社

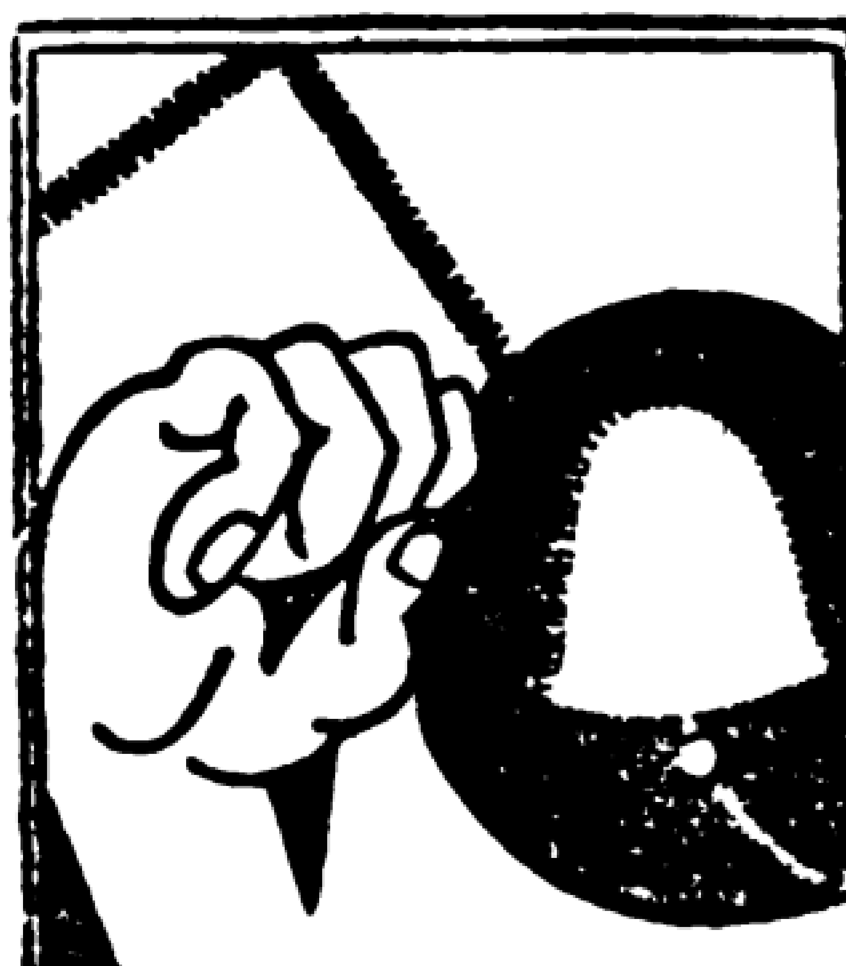
婦人運動

五月號　第七巻第五號

目次

婦人運動附錄版（八頁）發行

勝田香月氏近著



長編叙事詩

逆境の勇者

勝田香月著

増版・出來・

定價1圓　送料6錢

父を失ひ愛人を奪はれ悲慘なる運命に抗して雄々しくも郷土改革の爲に闘ふ山峡の叛逆兒山田敢兒!! 彼の鋼鐵の如き意志と火の如き情熱を基調として、最高の學府に學び貪慾な地主の父と爭ひ、△△共産黨に加盟して社會運動に身を投じ詩集『爆音』を遺して處刑された松永正夫、生涯を土に生きて悲慘な死を迎ふる老農夫、工場から賣淫窟へ賣られて貞操を蹂躙され、自由を剝奪され、遂に無斬漢の嫉妬の刄に斃れる可憐なる惠津子、貧しき農村の獨學青年等を中心として變轉錯雜せる一大長編叙事詩也。戀愛、肉慾描寫深刻、純情熱血の詩人勝田香月氏快心の作完成す。諸君の熱讀をまつ。

長編叙事詩

永遠に燃ゆる瞳

◆五月旬中發賣

定價壹圓

送料　六錢

▼深刻を極むる肉慾の描寫……………

▽貞操を蹂躙される一處女
▽色慾黄金魔!!　大久良男爵
▽階級戰線の闘士水谷純一
▽不貞な母を持つ子の惱み
▽厭世の揚句自殺する青年
▽仄かな夕月のもとに描かれたるラヴシーン
▽暴風雨の一夜獸慾の犧牲になつた惠津子
▽無産大衆を裏切るダラカンへの鐵槌
▽露骨に展開された賣淫窟の情景
▽捨て去つた愛人から脅迫される富豪の妾

それらの渦卷く人生のオーケストラだ!!

▼赤裸々に歌はれた人間ご社會……………

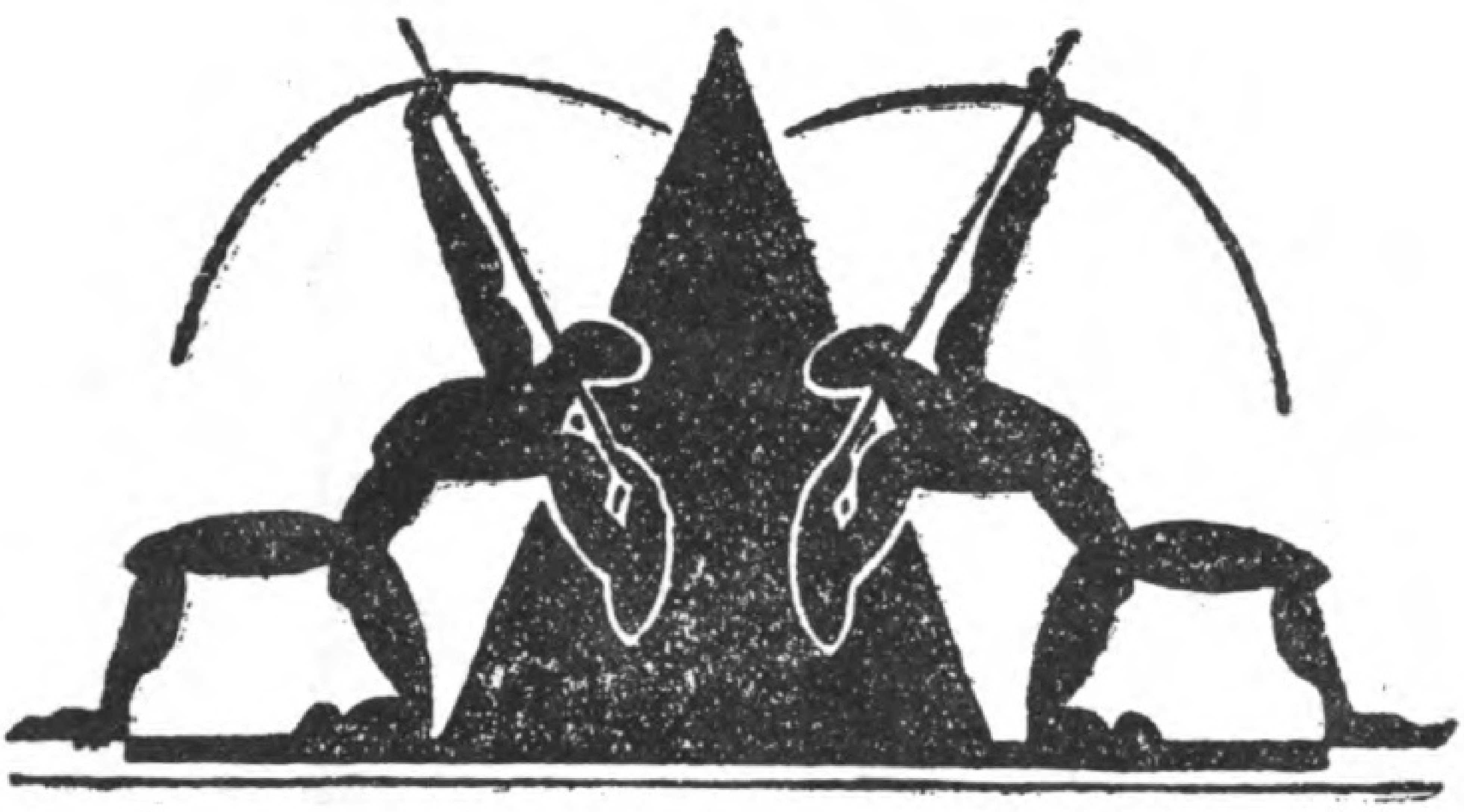
東京小石川區江戸川町十八
振替東京四〇二七九

交蘭社發行

逆境の勇者は東京國民書院發行なるも交蘭社に取次ぐ

婦人運動

第七巻　第五號



母性及幼兒保護と婦人

馬島久子

母子保護事業の必要

我國の人口の過半數を占めてゐる婦人、子供が如何にして保護されるべきかが、漸く社會人に考へられる樣になつた今日、ひるがへつて十年の昔を思ふと、その變化の著しい婦人の自覺に驚くであらう。

「婦人が職業を持つ」これには二つの原因があらうと思はれる。

第一の原因としては、勿論家庭經濟上からの必要が原因し第二には舊い因襲的觀念が取り除かれ、婦人自身の目醒めたる自覺によるものと思はれる。

今、私は日本に於ての職業を持つ婦人の數をこゝに數ふる事はさし控えたい。なぜならば每日に增加して行く現代の日本ではこれを斷定的に云ふ事が出きない。併し、私は職業婦人として社會に働く婦人の中に家庭を持ち、殊に子女を育みつゝ社會の一端に立つてゐる婦人のある事と、それに關聯して乳幼兒がどの程度までに保護されてゐるかを考へて見たい

女子の生涯の生活に最も重大な關係のある「子女哺育」それは私共女性として、政治よりもより以上に念頭に置かなければならない一大事であり、一大使命であらなければならない。

現在、吾國の社會制度の上に廣く目を注ぐ時に、やうやく母子保護事業なるものが認められ、職業婦人の激增と共に斯事業の發達しつつある事に感じさせられる。我國六大都市に於て、またその他の縣に於ても旣に公私共に斯事業の施設が備へられ尙增されんとしてゐる。東京市に於ても少數ながらも市設の託兒所、兒童健康相談所、乳兒院、また姙婦收容所等々が設けられて居り、その他私設の諸設備が目にとめられ

る。我國で行はれるこれ等の母子保護事業が如何なる方法によつて爲されてゐるかは未だ廣く社會の隅々の婦人にまでは知られてゐない、しかも婦人等自らの要求でありながら、私はこの問題について私が持つてきた期待を充たす爲に外國滯在を機會に、あちらこちら調べた事を少しばかり參考にこゝに書いて見る事にした。

歐洲諸國の職業婦人の數

早くから婦人が職業的に目醒めた歐洲諸國では、米國は先づ置いて、大戰の影響を受けて經濟的に苦しんでゐる獨逸、佛蘭西、伊太利、並びにソビエツトロシアにある職業婦人の數は非常なもので獨逸では約一千萬近くの婦人が職業につきフランスは全婦人の約四割、伊太利では三割五分の婦人がそれ〴〵の職業についてゐる。

彼地の乳幼兒死亡率と我國の乳幼兒死亡率

又一方に私共の重大問題として考へなければならない事は乳幼兒死亡率であらう。これを數字に於て表して見ると、出生百に對し、和蘭四、九。英國七、五。フランス一四、それに我國は一四、三と云ふ數字を表してゐる。我國の乳幼兒死亡率は諸外國のそれに對して斯の如き恥づかしき數字を示してゐる。諸外國ではこれについて保護事業としての諸種の方法がつくされてゐる事は申すまでもないが、殊にフランスでは人口減少を慮つて母性及び乳幼兒保護事業があらゆる方面に理想的に進んでゐる事は私に非常な感動を與へ、また敎へられてきた。

フランスの母子保護事業

私は今フランスの母子保護事業の沿革についてくわしく書く事は止めて如何なる方面に努力されてゐるかを書いて見たい。

先づ第一に如何なる設備が設けられてあるかと云へば、乳幼兒健康相談所並びに牛乳配給所、託兒所、育兒院、又母性共同組織として姙産婦收容所、哺育中の母の爲の食堂、又工場、會社、商店に働く婦人が乳兒を哺育する爲にそれ〴〵の所に哺育室を設け、乳兒あづかり所、母の家等、必要に應じて母子への援助となる方法をとり、補助となる方法を負擔してゐる。それと聯絡して姙婦への或る方規が定められて居り

産前、産後四週間宛の休養が手當てを受けつゝ得られる様に雇主と約束し、仕事を中止し得る權利が保證されてゐる。雇主はこの場合、一時中止を口實に契約破棄の原因を作る權利が與へられてゐない。又今より十五年前につくられた第三階級（都合上この名稱を使ふ）の母へ對する方規に、その期間中一日一フラン五十即ち八週間九十フランの手當てを與ふる事。その特權はフランスに國籍ある者、七ケ月以上居住者に一定の姙娠證明書及び主人の收入高證明書を持つて區役所に願ひ出た者に與へられる。リオン市ではこの方規を利用し、市の衛生局により訪問看護婦を派遣し、その狀態を詳しく調べ、よい聯絡をとらせてゐる。

尙その他分娩に際し資力、方策のない婦人（殊に公に結婚せざる婦人）に對し、或る時期より分娩後まで收容する母の家がある。これは決して私生子養成の目的でなく、棄兒、墮胎を防ぐ爲めの設備であつて、そこに收容される婦人は第一回目の姙娠の時にのみ利用する事が出來るのである。そこに來る婦人達は出產豫定日に近い時に慈善病院にて無料にて分娩し、出產後二週間或は三週間後母子共にこの母子の家に六ケ月間無料にて宿泊し得るのである。この間母なる婦人達は一定の正しい育兒法を當事者より敎へられ哺育しつゝ、幼兒の世話一切、又母子の家の掃除等を爲しその餘暇に手藝などを習ふ。また一方に分娩後或事業の下に母より手放なされ、絕緣されなければならない嬰兒が出生後直ちにこゝに收容され一ケ年間哺育される。かうした制度はある一面から云へば婦人の貞操保護觀念を弱くすると見られるが嬰兒保護事業の最も精神的に美はしい物とも云はれるであらう。

それ等の幼兒が六ケ月或は一ケ年の後には育兒院、または託兒所などにあづけられる、そして正しい育兒法の下に育てられてゐる。

それと同時に乳幼兒保護施設として、各慈善的姙婦收容所には嬰兒健康相談所、姙娠に對する相談所あり、一週間目或は二週間目に連れ來り、健康狀態により哺乳法に必要なる指導を受ける様になつてゐる。更に母乳不足の場合、又母乳哺育不可能の場合、混合哺育をさせる爲、消毒した牛乳を配給してゐる。

フランス母子保護事業の使命

斯の如き佛國の乳幼兒保護を基としての母性保護事業の使命は何處にあるか、と云へば、誤まられた育兒法が多忙なる母によつてなされる育兒法にて高まる乳幼兒死亡率を減じさせ、第一に人工哺乳を廢し、母乳哺育法を奬勵する爲に衛生局、健康相談所並びに育兒婦訪問看護婦の熱心なる働きとあ

らゆる方法——母乳哺育奬勵金、產衣贈與——等の經濟的援助を以つて果してゐる。

斯して育てられた幼兒は母なる婦人の容易に職業に從事し得られる樣、婦人の執務時間中午前八時——午後五時頃まで或は適當の時間內託し得る託兒所にあづけられる。

此樣に母子保護事業に力を注いでゐるフランスは巴里に一二三の健康相談所と各町に託兒所を持ち、リオン市には二六の相談所、十ケ所の市立託兒所と私的託兒所を多く持つてゐる。けれども尙不足を告げ、母性保護の爲、若し貧困なる母が年少の子供を二三人持ち尙姙娠してゐる場合、その母親への救濟のため後に生れ來つた子供をあづかる爲に乳兒收容所の必要が認められて居る。尙これと同時に一つの必要なる設備を御紹介したい。

それは相當の手當てと看護の暇のない母を持つ小さき病弱兒（結核性、先天性梅毒兒、虛弱兒）に對する病院のある事である。

ソビエツトロシアにある託兒所の一例

フランスに於て見た如くにソビエツトロシアに於ても、この事業が非常に發達してゐる事をお話しなければならないと思ふ。

ソビエツトロシアでは是等の制度は凡て國家の負擔となつてゐるので出來得る限りの設備に力を注いでゐる。そして革命によつてたて直された經濟上の苦境からやうやく息をついたが、尙一層の努力を以つて母子保護事業につとめてゐる。

私は或る一工場の一隅に設けられた工場附屬の託兒所を見たそこには生後六ケ月——一年半までの子供が（母親がその工場に働く爲に）一つの受持ちに十人或は七人、或は十五人位づつ部屋に分れて、遊び、食し、寢て母のゐない間の時間を面白さうに育兒婦の手によつて育てられてゐるのを見てほんとうに羨やましい氣がした、勿論そこには健康な子供のみあづけられてゐて、每日朝、來所の時、其處にある診察室で子供に異常があるかなきかを調べた上で、あづかつてゐる。若し少し面倒な病氣が起りさうな兒を母親が氣づかず連れ來つた時には母へ注意をして、早速手當てを家庭で或は家庭にて不能の場合は病院に入院させてゐる。尙健康相談所と共に婦人衞生部と姙娠相談所と、牛乳配給所が共に設けられてゐるフランス、ソビエツトロシアにある是等の施設の創設者、又從事者が如何なる人達によつて爲されたかについては今少し私共は考へたい。フランスとソビエツトロシアとは社會組織の上では差異はあるけれども、殆んどの仕事は婦人にて行なはれ支持されてゐる事である。公的事業として多くの婦人達によつて創設され、動かされ又一方に財的方面に理解ある婦人の大きな力によるもの〻ある事を知つて私の胸は尙打たれざるを得なかつた。



メーデー

婦人界

瓦斯電燈水道等公益事業の營利化反對

奥むめお

東京市會に無産派の議員が割込んで出てから瓦斯、電燈、電車賃、水道等公益産業の營利化に敢然と反對して、これまでの利權漁り議員らが到底云ひ得なかつた市民の聲の値下げ要求をどこまでも追求してゐるのは特に消費者の立場から欣快に堪えません。これに婦人側の熱烈な後援支持を以てしてぜひとも目的の貫徹するまでたゝかひ抜きたいものですが、料金不拂同盟使用せざる同盟を敢て行つても料金を値下げさせるまで會社側とたゝかふ意志を婦人はもたないでせうか。東京に於て、

現在行はれてゐる瓦斯料金は、大正八年炭價一噸が二十二圓した當時に制定したものであつて、今日では十七圓に過ぎず、それに消費量も逐年非常な勢ひで増加してゐるのですから（年四千萬立方フヰート）會社側は餘程多額の不當利得をしてゐる事明かであります。今度一億圓の増資決議も、配當を多くしやうとする株主らの營利心から出てゐると云はれてゐます。

單に瓦斯だけでありません。電燈も水道も電車賃も、これらは公益産業として自治體から特別の庇護をうける上に他の商賣の様に競爭のない獨占事業であつてどこまでも公益事業として利害を度外視して一般消費者のために便益多からしめるべき性質のものであるにも拘らず、現在は多くそれらの事業の背後にある資本家のために議員も買收されて幾多の醜事實の伏魔殿となり營利事業化してしまつてゐるのであります

婦人側の充分な監視と猛烈な値下げ運動の必要を痛感させられます。



日比谷のチューリップ

自主的な職業組合へ

看護婦の仕事が傷病者の看護といふ大事な奉仕に拘らず、今日幾萬の看護婦會があつて看護婦を搾取することを唯一の收入と心得てゐます派出婦會があとから／＼幾つ出來ても皆ソロバンが合つて儲つてゆくのも派出賃銀一圓なにがし（食事雇先もち）の中から、その二割を會が天引することに依つて積立てゝゐるのであります。

而も經驗のある人は誰でも云つてゐる樣に、次から次へと需要家さきへ派遣することにばかり急で「さぞ疲れたでせう。一日休んであしたから又派出することにしたらいゝでせう」といふ程の思ひやりさへ――そんな思ひやりをすることは折角の玉を遊ばせておく勿體ないことだと、需要のある限り、餘儀ない事情で今日一日を休みたいと申出でても拒絶され勝であります。そして甚だしいことには、需要申込が切れて休業のやむをえない場合は、當然のものゝ樣に部屋代や食事費を勘定して差引いてゐます。

一體、さういふ職業婦人たちが自主的な職業組合の一つさへ作らうとせず、いつまでも飽くことなき會主の搾取に自分の勞働をさらしておくのは何と時代錯誤な愚かさでありませう。需要家との聯絡や住居や電話や其の他一切の費用のために假りに從來、看護婦會や派出婦會にはねられてゐた歩合以上の積立金をする必要があるとしても、自覺したる職業婦人は、飽くまで自主的な組合を仲間同志で協力して作つて、これまで營利をこれ事としてゐる會などにて決してして貰ふことの出來なかつた一、充分なる休養、二、會員の質を改善向上させるための敎育――是は又、看護婦や派出婦の中には質の惡い者があつて困るといふ世の批難をなくするでありませう。派出料金の頭をはねて儲けることにばかり懸命な現在のやうな會では會員の質の適否を考へたり、それをよりよく敎育したりする



國際勞働代表の出發

ことは論外なことにみられてゐます――三、吉凶時その他に於ける相互共濟の方法をも常に確立させて共存の實をあげたいものであります。

一體、人間が他の人間を奴隷として使ひ搾取するといふことは如何なる場合にもあり得べきでありません。家庭にゐる婦人奴隷のことについてはこゝでは云はず、婦人が職業につかうとする趨勢がやうやく社會的必然とならうとしつつあるとき、經濟的に獨立しやうとしてけなげな決心で活動社會に飛込んで行つた婦人たちの前に、何と惡辣な罠が待ちかまへてゐて、職業婦人の勞働を搾取してゐることでせう。

女の就職率が何故高いか

就職難！　の聲は、今や全國的な悲鳴であります。

働かざるものは喰ふべからずとは、勞働者と農民の國、新興ロシアの國の掟でありますが、働く者は喰ふことが出來るロシアの國の羨ましいことよ。働いても喰へない邦日本、働きたくても働く仕事に有りつけぬ邦日本。快よく吾に働く仕事あれ――とは、豈に詩人啄木ばかりの嘆きでありませうか。

内務省社會局の調べた所に依りますと、知識階級の就職率は男女通じて、

	求職者に對するパーセント
大正九年	三、六一割
同十年	二、九三割
同十一年	一、八四割
昭和二年	〇、九六割

右表の樣にどん／＼成績が惡くなつて來てゐるのですが、こゝに見のがすことが出來ぬのは最近女の就職率が大分良好になつてゐる點であります。昭和三年には、男〇、七三割に對して女は一、九割が就職し、その後ます／＼よくなつてゐるさうであります。

むろん、女の求職者、失業者は男のそれに比べたらずつと尠くないのにも依りませうが、最



婦人選手

も大きな原因は、女は男よりもずつと安い月給乃至は勞銀で雇ひ得ること、女のもつてゐる性的魅力が常に、職業の上でも買はれやうとしてゐることだと云ふべきでありませう。

職業に就いた場合、女の勞銀が男よりも遙かに安い原因は、男に比しては女の職業能率が劣るからだとは普通にいはれてゐるのですが、同じやうな仕事に從事し、同じやうな分量の成績をあげても、女は、隨分安くしか評價されないのが一般であつて、多くは、自分一人の生活を維持することすら困難な位の薄給に甘んじてこき使はれてゐるのであります。そこに職業婦人が墮落してゆく恐ろしいワナがあるのだといはねばなりません。世間の不景氣がひどくなるにつれて、高い月給を必要とする男の代りに安上りな女で間にあはせようとする雇主がだん／＼殖えるでありませうが、之を以て女の就職率が益々良好になると云つて喜ぶべきでは斷じてありません。女自身も最低限度の生活費さへ支給されないで働いてゐるために不幸を一層深めるばかりでなく、その結果、一般の職業男子を失業させ乃至は安くねぎ倒されなければ働くことが出來ぬ窮境におひつめて延いては職業階級の一般的レベルを引下げて生活困難に陷れてしまふばかりであります。

女の性的魅力が買はれる、といふ點についても單に婦人本來の美が職業分野の一角に有利に展開されるといふだけならまことに結構なことですが、今日は必要以上にそれが利用され、惡用されて、性的興味を引くやうな嬌態媚態をつくさなければ餘計なボーナスも呉れない、首も危ないといふ雇主が決して尠くない樣でありますが、女を性的玩弄品視しやうとする傾向に對して私たちは人間的衿持のために強く不斷の闘爭を覺悟してゐなければならぬことを一層痛感するのであります。

× × ×



環境と所有觀念

（母と子の記録より）

伊福部敬子

快い朝の食事のあとの、打ちくつろいだ大人たちの心に迎へられて、彼は父の膝の中で言つた。

「お父ちやま、僕のはな紙がない。」

そして双手をひろげて見せた。

「はな紙？　押入に澤山あるぢやないか。」

「うゝん、僕の、僕のはな紙がないのだよ。」

父と母とは、思はず顔を見合せて笑つた。

彼には、押入の中にどんなに澤山のはな紙がしまつてあつても、些かも彼の喜びを値しない。彼には、彼のふところに入れたものだけが彼のものであり、彼の喜びなのである。

これは、彼の兄とは甚しい相違をもつてゐる。彼の兄は、必ずしも自分のふところへ入れたものでなければ喜びを値しないなどゝいふことはない。私はこの二人の子供の所有觀念の相違を來したものが、彼等各自がおかれた環境そのものであつたと信ずるのである。

彼の兄は、私共には長男で、大人たちばかりで構成してゐる家庭の中に初めておかれた子供であつた。で、家の中にある子供ものは玩具といはず、食物といはず、着物といはず、そのすべてが當然に彼の兄に屬してゐた。そして此の事は、彼の兄をして或安心に居させるやうになつたと思ふ。彼の兄は與へられた菓子を急いで口に押し込まなくてもよかつた。誰も彼の兄の領分を犯すやうなことはなかつたし、今日のためばかりでなく、明日のためにといふことも考へるを許された

その代りには、彼の兄の木皿にとりわけた菓子を一つでも

大人が口に入れようものなら、そして、それが特別氣に入つたものでもあれば、も一度口から出してくれといつて承知しなかつた。戸棚の中から出して償つても、彼にとつては何の補償にもならない、戸棚の中のものはもとより彼に屬してゐるのであつたから、兄の慾ばりも、寡慾も、全部のものが自分に當然屬するものだといふ所有觀念から出てゐるのである。

　けれども、弟の方はその出生がすでに兄の領分を犯すことであり、兄の所有を分けてもらふことであつた。從つて、彼は、彼に與へられるものだけが彼のものである。いつ何時誰かに食べられてしまふか知れない戸棚の中の果物が、どうして彼の喜びとならう。彼の小皿にとりわけられ、ふところに押しこんだものの外、信用すべきものはないのである。だから彼は自分のものとして分け與へられたものは、一どきに口へ押しこむ、明日のことなど考へようともしない。自分のお腹がわるくなつてもかまはない、たゞ口に押し込むことだけに喜びをもつ、そのやうな慾ばり方なのである。けれども、誰かゞ彼の所有を犯した場合には、戸棚から出して償へば滿足する、そのやうな寡慾さなのである。

　彼の兄のもつ所有觀念は、大人の中に唯一人の子供として置かれたところの境遇――私は之を名づけて長子的環境といつてゐます――より必然におこるものであるとすれば、彼のもつてゐる所有觀念は、既に子供のあるところへ迎へられた子供の境遇――次子的環境――より必然におこるものであると思ふ。

　そしてこれは私をして私有財産發生についての或物を考へさせてくれる。

×

　彼の兄は、玩具でも繪本でも、自分の玩具箱にのこして外に出る。無くなるといけないから藏つておかう、といふ程度の熱心さなのである。だから、いつまでも喪はれずにある。

　彼が、自分のメンコや玩具にかける熱心さは、もつと〳〵強い。一瞬たりともあとにのこしておけない、行住坐臥それを自分の體と共にもつてゐなければ安心の出來ない、といふほどの熱心さなのである。彼はいつもポケツと鞄にありたけの玩具とメンコとはな紙をおしこんで歩いてゐる、實はそのあとから〳〵それが落ちてなくなるのであることを、彼は知らないでゐる。

彼の兄は、周圍のものの愛情についても、安心して居るかかにみえる。けれども彼は、抱き、負ひ、物を與へ、話をしとにかく愛の證をみなければ安心出來ないやうである。

×

彼が積木を遊びながら、繪を描いてゐる兄に話しかける。

「お兄ちやん、一番大事なのは食物だねえ。」

「うゝん、人の方が大事だよ。」

「さうけど、食物がないと、死ぬじやないか。」

「だけどね、食物は人がこしらへるけど、人は、毎日神様に赤ちやんを下さい／＼つて賴まなけれや來ないのよ、だから人の方が大事なんだ。」

襖越しに聞きながら母は笑つた。

彼は五つ、そして彼の兄は七つである。

今井邦子

吾が乘れる電車に砂を吹きつけて風吹く今日の夕燒赤し

吹雪なる山形市に夜だちして夫は行かすも遊說といひて

木枯は疊のすさゆ吹き入りて家こもるへさ寒き宵かも

にぎはしき會に來りて吾はしもあげつらひしと小人どもの言ふ

鮭のひれ友とたべつつ年を祝ぎ支那の酒をも少しのみたり

若山喜志子

生ける世の寂しききはみにをるものをなほたへよとか事起りたり

すがるべき人はふただひわれに見えず口惜しきかも事起りたり

たま／＼のいとまある今日や机の上淨めてひとにたんざくをかく

中河幹子

櫻花春べと咲きてしづごころいまは空しと人のさまよふ

櫻花夜眼にましろしふく風の寒けきなかに搖れかそかなり

あかときの五時うちにけりまだ暗き外の面ひそかにかゝる細き月

月かげはひそやかにしもかかり居りあかつきかけて冷えいちじるき

みどり子のあやせば笑ふかなしさや勞苦たちまちいゆる心地す

メーデー片々

赤松常子

我等の日メーデーは來た。この朝ばかりは、機械から、塵汚から、搾取から解放されて、同志の顔も輝かしい。苦難の戰線の途上で、ストライキで味方に勝利の旗の上げられた日と、近頃では、我黨議員の當選の電報を握つた日と、そしてこの日メーデーの時位が私共に許される僅かな歡喜の日ではある。

×

その朝、勢揃ひをしてゐる本部の庭の片隅の、あつちでパリ〳〵、こつちでパリ〳〵、何事かとのぞいて見たら、可愛い紡織組合の妹姉が、よつてたかつてお互の肩上げを下し合つてゐる。

「まあどうして？」

「だつて、廿歳でなくちあ、あのおまいはりのかためてゐる關所を通さないでせうこの肩上げが邪魔になるのですもの。」

御下げにしてゐる人は、ピンを借り集めて束髪にくる〳〵。やつとこの變裝が功を奏して、メーデーの會場入口のおまはりのトンネルをパスした姉妹もあつたが、大部分は

「オイお前は駄目だぞ！」

「子供の癖に生意氣だ！」

と、どん〳〵つまみ出された。中には

「何云つてるんだよ。かう見えてもわたしや立派に廿歳だよ！」

とタンかを切つたはいゝが

「ちあ何年生れだ！」

◆◆

五月一日は勞働祭です。萬國の勞働者が一日の仕事を休んで祝ふ日、勞働者の威力を示す日長い〳〵行列を作つて、街頭にくり出し示威運動をする日です。

メーデーには每年、幾つかのスローガン（標語）を掲げて今年一年のたゝかふべきまとを示すことにしてゐます。今年は次の九ケ條です。

一、勞働者の解放は勞働者自身の力で
二、團結權罷業權の確立
三、失業絕對反對
四、反動團體の撲滅及解放運動犧牲者救援
五、八時間勞働制の確立
六、勞働立法竝びに交通事故に依る特別裁判法の制定の促進
七、中間搾取の撤廢竝びに自由勞働者最低賃銀制の確立
八、自由勞働者傷害保償の確立
九、深夜業廢止に依る賃銀値下絕對反對

×

日本のメーデーが初めて行はれたのは、大正九年でした。今年は第十回目にあたります。年年參加する勞働者の數が殖えて（左記の表の如く）殆んど全國的に、勞働者の住む各市町村で

とつこまれて、「……。」
で、その後にゐた人はそつと列をぬけて、あとの方につゞいてゐる變裝姉妹に「何年生れか」聞いたら、××年生れと云ふんですよ。」
　と早速電信係、それも厳重なおまはりの見張の前での藝當なので、仲々骨が折れる。

×

　赤い旗が燃えて街から街へ流れる。歌聲と歡聲が怒濤の樣にうねる。行列は進む。進む。
「ふと、横を見ると人道にも一隊の行列が進む。さつき入口でつまみ出された未成年隊が、
「何處までも！　私達も！」
　と私服にけちらかされ〳〵し乍らも小メーデーの行列である。
「勞働組合主催の各運動に、未成年勞働者の參加自由獲得の件」
　を大會に持出して戰つてゐる紡織の年少婦人勞働者は叫ぶ。
「搾取の前には年齢の制限はない。むしろ幼年工は安い賃銀の奴隷として迎へられるではないか。私達未成年者も立派な完全な勞働者である。勞働者自身の祝祭に參加出來ない理由はない。法律にも參加拒否の明文は設けられてゐないのである。たゞ警官の手加減で私達の自由は奪はれるのだ。私達が自由を叫ぶ時にのみ出鱈目な制限の鐵柵が高く築かれる。私達は一人の勞働者としてメーデーに參加しうる權利がある。」

×

……永き搾取に惱みたる
　無産の民よ蹶起せよ……

　腹のどん底から絞り出す歌聲が、前を行くお婆さんから怒鳴る樣に流れる。小

行はれるやうになりました。
第一回(九年)上野公園一千人△第二回(十年)全國五箇所五千人△第三回(十一年)全國三箇所六千六百人△第四回(十二年)全國九箇所一萬三千人△第五回(十三年)全國十三箇所一萬六千人△第六回(十四年)三府十三縣三十一箇所二萬六千人△第七回(十五年)一道三府十七縣三十三箇所四萬三千人、外に農民組合のみのメーデー一道十縣二十二箇所參加人員不詳△第八回(二年)一道三府十七縣四十七箇所四二萬二千人外に農民組合のみのメーデー一府七縣參加人員不詳
△第九回(三年)一道三府二十五縣七十二箇所二萬四千人

×

昭和二年のメーデーが參加人員を減少せるは、諒闇中なりしと金融恐慌直後の打撃にして、三年のメーデーが略半減せるは、共産黨檢擧に伴ふ左翼組合に對する取締厳重を極めしによるものであると云ふ、而して本年の第十回メーデーには、前年よりも若干參加人員の增加あらんも、三萬人を超ゆることなかるべしと觀られてゐます。

×

さい丸髷に埃が薄く浮いてゐる。尻をはしよつて辨當斜めに肩へくゝりつけたこの五十四歳の老いた同志は、年若い者よりも元氣である。

「お婆さん。疲れるわよ。少しは怒鳴るのを休まなくちあ。その辨當を持つて、上げるから貸しなさいよ。」

若い者が氣を利かしたつもりで云はうものならやり返される。

「御世話樣だよ。そんな意氣地なしなら始めつから來やしないよ。」

この老婦人組合員は鐵工〇支部婦人部の重鎭である。

×

日比谷に向つて行列が進んだ。ふと禁止されてゐる歌の一節が半分聞えたと思つた途端に、ガチヤ〳〵ワツーと歡聲が上つたと思ふと、五六人一團の黑い群が眞中に女を取りまいて、もみ合ひ乍ら交

番にころげ込んだ。私の後に居た濱ちやんが引ぬかれたのだ。革命歌を歌つたから歸りに貰ひ下げに行かなくちあと思つて解散を待つ間もなく、濱ちやんは飛んで來た。

「私云つてやつたの。私赤坊にお乳をのませなくちあなりませんので、午後二時迄に××橋へつれて來てくれと云つてあるんですから、歸して下さいとね。そしたら、ちやあんとその時間に歸してくれたのよオホ………。」

勿論濱ちやんは、主人もましてや赤坊もない。工場の寄宿舍で暮してゐる人である。

メーデーの起りは一八八五年(わが明治二十八年)の十月、米國シカゴで催された各種勞働團體の協議會で、八時間勞働制獲得のためにあちこちで行はれるストライキを統一した大運動を起すために、毎年五月一日を期して、(刻下の大問題であるところの八時間勞働制を實現するために)總同盟罷業をする、と申合せたことから初まります。

×

その日は全米國のあらゆる職業に從事する勞働者が、一せいに仕事を休んで聲を合せて次のやうに歌ひ乍ら、町や廣場を練つてあるきました。

けふより後、一人の勞働者も
八時間以上働くな!
八時間の勞働!
八時間の休養!
八時間の教育!

× × × ×

政府の米買上げが如何なる利害をもたらすか

前田繁一

酒や團子はなくてもすむ。如何に甘黨だらうが辛黨だらうが日本人として日常なくてかなわぬものはお米です。そのお米の値段が高くなるのと安くなるのとでは、我々の生活上に大なる影響を齎らす事は云ふまでもありません。そのお米を政府は今回百萬石買上げる事になり、四月十一日から毎日五萬石を限度として買上げつゝあります。それが又非常な申込みで、毎日申込みは五萬石を突破するの盛況であります、然も政府は此百萬石の買上げに依つて、買上げの目的を達し得ない場合には、更に百萬石位買上げると云ふ意嚮らしいのです。一體政府の米買上げの目的は何にあるのでしよう。此のお米買上げの結果生産者に如何なる利益があり、消費者には如何に響いて來るものでしやう。

政府が米を買上げたり賣つたりするのは、所謂米穀需給調節特別會計法に基いて行ふのでありまするが、一口に米の買上げと云ひましても、其の目的とする所に二つの種類があります。

一つは需要と供給の調節、即ち賣手たる生産者の賣米の數量が買手たる消費者の消費する數量より多過ぎたり少な過ぎたりする場合に、多過ぎたり少な過ぎたりしない樣に、政府がその過不足分を買つて保管したり、保存米を賣つたりしてそれを調節するのです。此の數量を調節する事に依つて、價格が上つたり下つたりするのは云ふまでもありませんが、此の場合に於ける價格の騰落は決して政府が米の賣買をする目的ではないのであります。所が第二の場合は價格の調節、即

ち數量の如何よりも米價の高い安いと云ふ事を目標として、米價を釣り上げたり引下げる爲に米を買上げる。從つて始めから需給關係上何程の米を買ひ、又は何程賣る必要があると云ふ、數量に目標を置いて賣つたり買つたりするのではなくて、何程買へば米價が上るだらう。何程賣れば米價が下るだらうと云ふので、買つたり賣つたりする。もしそれで效果がなければ更に買上げたり賣つたりするのです。今回の政府の米の買上げは、後者の目的、即ち米價を釣り上げやうと云ふ目的の爲に行なはれて居るのです。

　此所で政府が今回お米買上げを行ふに至つた經過を簡單に申述べませう。

　御承知の通り、昨年も一昨年も六千萬石以上の大豐作が續いた。供給力が増大すれば米價の下るのは當然である。米價は從つて低落して、生産費すら償い得ない安値となつた。精出して、肥料も多く使つて多く收獲したのに對して、米價が下落して生産費も償い得ない結果を見ると云ふ事は、お百姓として堪つたものでない。こんな事なら怠けて肥料も少く使ひ、お米を少しより取らずに値段を高くして收入を比較的に多くした方が、どれだけ良いか判らないと云つた樣な事が、知らず〳〵の内にお百姓さんの頭に浮び出すのも無理からぬ事です。それでせめて政府のお力を借りて米價を釣り上げたい。そして自分等の收益を出來るだけ多くしたい。日頃農事改良だの、多收獲奬勵だのと喧しく云ふ政府としては、多收獲の爲に農家が反つて非常な不利益を見つゝある今日、米價を釣り上げて農家の收益激減を緩和する義務があると云ふものだと云ふので、盛に農會邊りが政府に陳情したものです。

　所が政府が米を買上げやうにもお金がないと云ふのは、政府が米を買上げるのは、前にも云つた通り米穀需給調節特別會計法に基いて行ふのでありまして、同會計の米買上げの資金と致しましては、借入金の二億圓よりない。二億圓以上は借入金が出來ないと云ふ事になつて居るのです。然も其の二億圓も、米を買つては損をし、米を賣つては損をして、今では一億七千萬圓も借金して居る狀態なのです、從つて法律で許されたゞけ借入金をして見た所で、もう三千萬圓足らずより借入金が出來ない。僅か三千萬では天井から眼藥同然、何程の米も買上げられない、從つて農家の希望する樣に米價の釣上げは思ひもよらない。仕方なしに昨年の一月から春頃にかけて米價低落救濟の應急的資金として、政府は預金部資金

を低利で三千萬圓を融通する事にして、一時農民の不平押へとしたものです。然し之れで農民は滿足するものでありません、米穀會計法を改正して借入金の限度を四億圓、即ち現在の倍額に增加せよとか、徹底的に買上げて米價を釣り上げよとか、農會の決議として盛に當局に陳情したものです。然し當局としては、財政上からして到底借入金を四億圓に增額する事は出來ない、と云つて農村を唯一の地盤とする政友會としてこのまゝ打ちやつて置く事が出來ない。全く政府はヂレンマに陷つて惱み拔いたものです。

親の心子知らずとでも云ひますか、政友會所屬議員は各派の農村出身議員と協同して、米穀需給會計の借入金の限度を四億圓に擴張すると云ふ改正法律案を議會に提出し、民政黨も又正面から反對する事は出來ず、結局大多數で衆議院を通過せんとする形勢になつたので、政府も放任する事が出來ず種々協議の末、三月四日の閣議で借入金の限度を七千萬圓增して二億七千萬圓にしやう。さうして現在の借入金餘裕額三千萬圓と、此の增額する七千萬圓とを合した、一億圓を以て米の買上げを實行しやうと云ふ事に決し、與黨議員を始めとした米穀會計法改正（借入金二億圓を四億圓に增額せんとするもの）法律案の提出者に之れを說明し、議員側の提出案撤回と政府案に贊成せん事を要望し、政府は右七千萬圓增額に關する米穀會計法改正案を議會に提出したのです。議員側は政府をして議會がすみ次第、直ちに多量の米買上を實行すると云ふ事を聲明させて、自分等の提案した改正法律案を撤回し、政府案を可決し、貴族院では多少の反對論も出たが、米の買上げに對して政府は愼重なる態度を採るべしと云ふ希望條件を附して可決しました。

斯くして借入金七千萬圓增加案は兩院を通過し、玆に成立を見るに至つたのです。そこで政府は三月末に米穀委員會を開き、米穀委員會は差當り百萬石の米を買上げ、若し效果なくんば更に相當の米買上を實行せよと云ふ決議をして政府に答申したのであります。さうして前述した樣に、政府は四月十一日から每日五萬石宛、差當り百萬石の米を買上げ、以て米價を釣り上げやうと云ふ事になつたのであります。

斯くの如くして實行さるゝに至つた政府の米買上げが、果して農家並に政府の期待した樣に米價釣上げに效果があつたかと云ふと、殆んど其の效果は見る事が出來ない狀態に在ります。即ち政府が米穀會計の借入金七千萬圓增額すると云ふ

事を決意した前々日の三月二日に、正米相場は一石二十八圓六十錢であつたものが、七千萬圓増加を決定した翌日の三月五日に三十錢上つて二十八圓九十錢となり、同案が衆議院を通過した翌日の十六日に二十九圓十錢となり、貴族院で希望決議を付けた爲に二十六日には多少下つて二十九圓となり、それが米穀委員會で百萬石の米買上を決議した翌日の四月一日二十九圓三十錢に騰貴し、愈々政府が百萬石の買上げ實行を聲明した爲に四月四日には二十九圓七十錢となつた。然し政府の買上げ値段が一般の期待程高くなかつたので其後は多少安値を示し、四月二十日は平均値が二十九圓三十錢と云ふ事になり、結局今日(三月二十日)の所では政府の百萬石買上げの效果が僅かに一石七十錢、一斗七錢、一升七厘と云ふ狀態なのであります。

一石二十八九圓と云ふのは大都市に於ける正米の取引値段でありまして、農家の賣る値段はそれより少く共二三圓は安いのです。從つて農家の手放す米の値段は二十四五圓から二十五六圓でありまして、之れではいかな農家も引合はぬのは云ふ迄もありません。從つて農家に對しては全く同情に堪へない次第であります。然し此所に考へなければならぬ事は今頃になつての米の買上げが、果して農家を救濟する事になるであらうか、米の買上げに依つてどれだけ農家が益し、どれだけ消費者の負擔が重くなるかの點です。

申上ぐるまでもなく、お米の穫れるのは十月末から十二月始めの間でありまして、今日までお米を持つて居るものは、農家としては殆んど大地主のみでありまして、中小農家中お米を持つて居る程の者は極めて少いのであります。從つて政府の米買上げに依つて農家が益すると云ふ事になれば、その益する農家なるものは大地主、大中農家だけであつて、小農家及び中農家の大部分と云ふものは、何等の利益を受けないのみか、賣り得るものは既に賣り盡し、今日では買つて食ふと云ふ消費者の立場に立つて居るので、米の値上りに依つてそれだけ負擔を重加させられるのであります。一方消費者はどうかと云ひまするど、政府の米買上げに依つて、前述の通り正米値段に響いた所は僅かに一石七十錢程度でありまして政府が百萬石も買上げる事に依つて僅かに一部の大地主と大中農家のみの、然も僅かに一石七十錢程度を益せしめたに過ぎないのに拘らず、期米なり正米の値段の動きは、それも安くなる時には極めて鈍感でありますが、少しでも高くなる時

は極めて敏感に白米小賣値段に響きます。假りに正米値段が七十錢なり一圓上ると、白米値段は直ぐに一圓なり一圓五十錢も上げられると云ふのが常例であります。從つて今回の米の買上げに依る期米並に正米の値上りは僅々七十錢でありまするが、消費者の臺所に響くのはそれ以上であります。

　更に今回の米の買上げに就きまして考へさせられます事は政府が一億圓も金を借り入れ得る準備を整へ、差當りだと云つて百萬石も米の買上げを行ひ、更に效なくんば又百萬石位買上げると云ふのに、何故正米の値上りが僅かに一石七十錢位に止まるのだらうと云ふ事です。然し政府が如何程米を買上げても、大隈さんが品川沖で捨てた樣に、買上げただけの米が消えてなくなるんなら兎も角、如何程買上げても政府がそれだけ倉庫に持つて居る。そして永く保管して置く事が出來ないのであるから、何時かは賣らねばならぬ、現に政府の所有する米が二百四十萬石もある。今回の買上米を合すると三百四十萬石になる。更に百萬石買上げるとなれば四百四十萬石にもなる。斯うした澤山な政府所有米が、何時かは賣りだされるんだと云ふ事は、お米の賣買を營業にして居る者に取つては非常に不安であり、米の置き場をかへた、即ち民間の所有するものを政府が持つと云ふだけであるから、此の政府所有米がおもりとなつて、米價が上らうにも上れないのである。政府は更に又米の買上げを再度決行しやうと云ふ腹の樣であるが、再度の米の買上げでも、果してどれだけ米價が上るか疑問であります。

　今日までゝも政府は米の調節の爲に、多大の國費を投じたのでありまするが、今回の樣に、僅かに一部の大地主、大農の極めて少額に過ぎない利益を增進する爲に、多數の小農家や多數の消費者に對して、一部大地主の受くる利益よりも更に大なる負擔を重加せられる事は甚だ迷惑千萬であります。然も僅に一部分の大地主大農家を救濟する爲に、多額な國費を投して、結局國民に對してその投資額の大部分を負擔せしむる事になつては、國民こそ良い面の皮と云ふものです。

　米買上げの問題とは別問題でありまするが、私達が常に遺憾に思ふのは、正米の値段が二十八九圓であるのに、消費者の臺所で使はれる白米の値段が三十八九圓から四十圓もすると云ふ事です。正米即ち玄米と白米の値段の開きが實に十圓以上に達すると云ふ事です。政府が米を買上げる事に依つて一斗で七錢玄米の値が高くなると致しますると、白米の値段

が十錢以上、甚だしいのになると玄米の値上りの倍も値段が飛び上ると云ふ事です。玄米を精白するのには殆んど經費がかゝらない。つき減りはするがヌカや米俵代その他で大體補へる。從つて精白に多少經費がいるとしても、それは殆んど物の數ではないのです。それが玄米と小賣白米値段の間に一石で十圓、一斗で一圓も値開が出來ると云ふのは何に原因するのでせう。勿論小賣商が大變にボツて居るとは思ひませんし、現に白米の小賣業の口錢は極めて少いものだとされて居るのです。さうすると實に不思議ではありませんか。斯くの如く玄米と小賣白米値段の開きが多いと云ふのは、要するに我が國の配給制度に大なる缺陥のある事を物語るのでなくて何でありませう。卽ち生産者と消費者の中間に、五人も六人もの商人が仲在して居る事が、知らず〳〵の內に物價を高くするのです。お米にしたつてさうです。一人の商人が假りに一割の口錢を取るとしましても、五人の商人の手を經れば五割の口錢になり、生産者から地方仲間商人、精米商、問屋小賣商等、次ぎから次ぎに轉々する爲に、運送費や荷造り費、荷造りのし直し費等、其處に又多大の經費を要するだらう事も想像に難くないのであります。

私達は、生産者の利益を增進する必要を認めまするると同時に消費者の利益を保護するの必要をも痛感させられます。お米の買上げも必要でしせが、一方には配給制度の改善、生産者と消費者の接近、生産者と消費者の直接取引に依つて生産者を益すると同時に消費者の利益をも增進する樣にせねばならないのです。

當面の三題

◇贅澤品關税の改正
◇木材關税のひきあげ
◇深夜業の廢止

一、贅澤品關税の改正

紅茶を買ひ行つたら、

「未だ新税法に依らない內は從來の値段で、お高うございます。來月からお安くなりますから又どうぞお買ひ下さい」

といんぎんに出られてこれは失敗つた！　とも云へず、下手な買物をして來ました。

さき頃の五十六議會で贅澤品に課せられる關税について改正法案が通過せられ、これまで一口に贅澤品といはれてゐた紅茶、ココア、寫眞機、陶磁器、硝子その他の輸入税金が下がつたのであります。これは大正十三年頃民政黨內閣のとき奢侈に流れかけた人心を引締め輸入防止のためとあつて海外から輸入される贅澤品に十割の重税を課することを實施した

◆食糧展覽會から◆

園かづ子

食糧知識の總動員！　陸軍糧秣廠主催の食糧展覽會は私たち婦人にとつて有益なものゝ多い食糧知識の總動員でした。以下、私の興味をひいた箇所の中から私に許された頁數だけを拔き書きしたものであります。

◇

私達は毎日、直接にぶつつかつてをりながら、食物に就いての研究態度が、とかく投げやり勝ちな事を痛感させられます。家人の生命維持や發育の爲めの食品調理を、一手に引き受けてゐる家庭婦人にとつて、其れに就いての色々な統計や試驗の結果を知る事は、可成り啓發されることが多いので今回の食糧品展覽會の目に附いた事柄に就いて左に記しませう。

◇

(一)　さて一人の人間が一ケ年間、凡そどの位、食べるものであるかを檢べますと、

一人一ケ年間に消費する主要食糧

品名	分量	品名	分量
米	一石一斗一升二合	小豆	二升一合
大麥	九斗二合	粟	二升一合
小麥	一斗四升二合	蕎麥	一升四合

ことがあります。十割の税金といへば一圓のものに一圓の税金が掛るのですから二圓以上の値段となります。（一割の關税であれば一圓十錢ですむ處）

　ところがこの税法實施後まもなく贅澤品と日常の必需品とを混同して一様に高い税金をかけてその値段をつり上げることは國民の消費生活を脅すものだといふのできつい輿論の反對があり、實業同志會では、去年政友會と政策協定の申合せをしたときその中の一つの條件としてこの税法を改正することを約束させた位でした。それが愈々議會を通過して實施され、次の品々にかけられてゐた關税が安くなりました。

紅茶	（百斤）——	88,5圓	（五割）
ココア	（百斤）——	6圓	（一、五割）
蜂蜜	（百斤）——	21,6圓	（五割）
ジャム	（百斤）——	26,3圓	（七割）

今までこれらは皆十割關税でした。

關税、消費税などに依つて正當以上に高くなつた値段のものを、私たちは平素生活必要品の中に澤山買はされてゐます。税金は金子のあるもの財産家から直接に税金をとり立てゝ、

大豆	九升四合
馬鈴薯	三貫三百二十六匁
甘藷	十五貫二百八十五匁
大根	十貫七百七十二匁
漬菜	二貫四百四十九匁
果實	A梨 五百九十匁 B柿 九百四十匁 C蜜柑 九百五十匁 D苹果 三百三十匁
鮮魚介類	六百九十匁
鹽藏品	二百九十三匁（鯨鮭[illegible]類）
鷄卵	三十七個
雜製品	四百六十四匁
蔬菜	A胡瓜 九百四十匁 B茄子 一貫七百五十匁 C里芋 二貫六百匁
茶	百十五匁
砂糖	二十一斤
粉ミルク	六匁
煉ミルク	五十五匁八分
牛乳	七合八勺
牛肉	二百九十五匁
豚肉	十六匁
乾製品	六百十七匁（昆布、佃煮、鰹節類）
鷄肉	百二十九匁

（二）大切な榮養素としてのヴイタミンは種々な食物に含まれて居りますので選り好みなく食べなければなりません。偏食者には缺乏し易いとの事です。

ヴイタミン類の作用性狀及分布概表

	作用	性狀	分布
ヴイタミンA	眼疾を豫防し、傳染病に對する抵抗を増す。	脂肪及其の溶媒にとけ、熱に抵抗強く、酸化に依り破壞される。	バタ、肝油、卵黄、魚油、牛乳、キャベツ、チシャ、ホーレンソー、乾海苔。
〃　B	脚氣を豫防し、新陳代謝を促進す。	水及稀アルコールに溶けアルカリ強度の熱に破壞される。	卵黄、米麥の胚、酵母、魚卵、穀類果實類。
〃　C	壞血病を豫防す	水、アルコールに溶け加熱により容易に破壞される。	蜜柑、レモン、トマト、大根、サラダ、乳汁。

消費稅關稅といふ風な間接稅——即ち、おもて向き稅金として取立てないけれど、結局賣價の中に當然含まれて高くつく稅金——を少くすることは先進國の傾向であるにも拘らず、

イギリス　間接稅は直接稅の約半額
日　本　間接稅が租稅の六割を占める

日本は稅金を金持から取立てることが下手で、間接稅に依つて無産者から隨分不當に高く搾りあげてゐます。關稅の如きものも當然無くしてほしいものであります。各國がお互ひに關稅を設けて輸入品の邪まをするからみんなが高いものを買ふようになり、結局みんなの國の產業が無駄な費えを餘儀なくされ互ひに傷つけ合ふてゐます。

二、木材關稅の引き上げ

同じく今度の議會で實施されたものに木材關稅ひきあげがあります。これは、外國から輸入されて來る木材に高い稅金を掛けて結局賣れにくうすることに依つて、日本材を奬勵保護しやうとする趣意から出てゐます。

ところで輸入せられる外國材とは、米杉、米松と一口に云はれてゐる如く殆んど米國ものばかりですから、打擊をう

〃　D	佝僂病を豫防す	脂肪及其の溶媒に溶け熱、酸化に强し。	ヴイタミンAと共存する事多し。
〃　E	生殖機能を維持し、不姙症を豫防す。	脂肪其の溶媒に溶け熱光線に對して强し。	米麥の胚、綠葉類、植物油。

ヴイタミンA・B・Cを共有する食物は、トマト、パイナップル、人參、馬鈴薯、ホーレンソー、ササゲ、キヤベツ、牛乳、水蜜桃等です。

（三）次に榮養と疾病との關係を表に依つて現はします。

缺乏の種類	疾病の種類
蛋白質缺乏の場合	發育不全貧血症
鹽類の缺乏	骨の發育不全、全身の機能減退
ヴイタミンAの場合	夜盲症（とりめ）隔膜乾燥症
ヴイタミンBの場合	脚氣
ヴイタミンCの場合	大人に於ける壞血病、小供に於ける、メルレル・バロー氏病
ヴイタミンDの場合	佝僂病
ヴイタミンEの場合	不姙症

（四）胚芽米と白米との養分比較（百分比）

	蛋白質	脂肪	含水炭素	灰分	鐵
胚芽米	八・二八	一・六二	七八・五一	○・八五	○・四
白米	七・三八	○・九六	八九・七六	○・三九	○・一六

胚芽米は白米に比して如何なる長所があるかを見ますと、

一、蛋白質、脂肪、鹽類、ヴイタミン等の榮養素に富む事。
二、脚氣を豫防し又は之を治癒する事。
三、胃腸等の消化分泌を促し、消化吸收を佳良にする事。
四、消化管の運動を整理し、便通を規則正しくする事。

けた米國木材業者は猛烈な運動を起して、日本が斯様な新關税法に依つてアメリカに損害を與へるからには、その報復として日本から輸入される生糸や茶や玩具や金魚にまでアメリカ政府は重税を課してやれ、といきまいてゐるのであります。

新關税は、未だ製材しない素材に對しては輸入價格の一割二分五厘、製材したものには二割を標準にして大きさに從つてかけることになつてゐますから、米松大中角物一石につき五十八錢四厘、米栂大、中角物一石につき一圓五十錢高になり、鉛筆材になるシダー材は日本には適當なものがないのですから從來通り無税、結局安くて綺麗だといふので大持てだつた米材がその特質を大分失ふわけであります。これまで一ケ年に凡そ一千萬石、その價格八千萬圓から一億圓の輸入をみてゐたといふのでありますが、そのための國庫税收入六百五十萬圓、それが今度の改正に依つて一千萬圓に増收できやうといふのであります。ところでこの法案に何故あれほどまでに一般の反感不人氣を買つてゐたか、といふに、關税を輸入品に掛ければ掛けるほどその値段が高くなつて來る、關税收入が一千萬圓に増すといふのも、それだけのものを一般の木材消費者の支拂ふ價格に轉嫁させて高いものを買はせるだ

五、全身の活動を增進し作業能律を增す事。
六、産婦が之を食すと乳兒の發育を完全にする事。
七、其の他榮養素增加に伴ふ種々なる長所。
等です。

（五）眼と榮養

各人の眼と榮養との關係

初めは

- 食物中にヴイタミンAの缺乏する時
  - 結膜乾燥症となり
  - 特發性夜盲となり
  - 角膜軟化症に化し
  - 角膜穿孔より
  - 失明に終る。
- 食物中にヴイタミンBの缺乏する時
  - 脚氣
  - 球外視神經炎 ｝より
  - 弱視
  - 失明に終る。
- その他全身的榮養關係により
  - 皮膚榮養障礙より
  - しろそこひ（或る種の白内症）
  - 肝臟失患より
  - 夜盲症
  - 腸内異常醱酵より
  - 結膜フリユクテン
  - 角膜フリユクテン
  - ランドフリユクテン ｝（めぼし）

（六）齒と飲食物との關係

食物の局所的作用、

◇A發病性作用（直接又は間接に齒牙を脫灰せしむるもの）

1 釀酸性食物
2 停滯性食物
3 破壞性食物

けであり、內地製の木材業者も輸入難、關稅ひきあげを口實にしてきまつて値上げをしますから、結局一般木材消費者に高いものを買はせて、たゞ山林を持つてゐる者や大きな木材業者の儲けを多からしめるばかりになるのであります。

産業保護の大將フーバー大統領が日本の木材關稅に對抗して日本からの輸入妨害策にでも出やうものなら、一般消費者は木材値上げばかりでないひどい目にあふでありませう。

三、深夜業の廢止

工場に働く女工さんたちの深夜業勞働がいよ〳〵やめになることになりました。これは夜中に働くといふ事は、隨分身心に弊害が多いので實に長い間識者の問題となつてゐたことですが資本家工場主側の反對にて實現されずに來ました。

大正八年に國際勞働會議第一回のとき日本の政府代表も、必ず近い內に女工の深夜業廢止を實現しませう、と言明して歸つて來たにも拘らず十年經つて未だこれを行つてゐないぢやないか、と先頃トーマ氏が來朝したときも日本は詰問されて困りました。それがやつとこの七月一日から全國的に、工場に於ける深夜業を禁止する法令が活用されるのであります

◇B豫防性作用（直接又は間接に齒牙を保護するもの）

1 稀釋性食物
2 中和性食物
3 破包性食物
4 直接淸掃性食物
5 間接淸掃性食物

文化生活はムシ齒を增加させる傾向が有るそうです。

齒の主成分は酸化カルシユームですから齒を丈夫にしようと思ひますには酸化カルシユームを充分攝取しなければなりません。そして酸とカルシユームとが結合するには、ヴイタミンDと、ヴイタミンCとが大切な役割を演ずるのです。

今此處にヴイタミンDを含まない動物性食品『ゴレステリン』に太陽の紫外線を對照すると、ヴイタミンDの作用を現はします。之を『エルゴステロール』と云ひます。

私共が日光に當るときは皮下組織に在る脂肪類や、その他血管中の『ゴレステリン』が『エルゴステロール』に變化し、之れが全身に循環して、齒や骨に石灰化作用を起すのですが――そこで丈夫な齒を作るには太陽の光りを食べよ――と云ふことが云へるのです。

ですから日光浴は、身體を健全にし、齒を丈夫にし、其の上ヴイタミンDを攝取したと同じ效果があるわけです。

燐は主として、牛乳、卵、肉、魚、葱等に含まれカルシユームは野菜類海草類、貝類等に、ヴイタミンDは、うなぎ、肝油、バタ、卵黃等に、ヴイタミンCは新鮮な野菜類トマト等に在ります。

（七） 耕地百町步の擔える人口、

日本內地 八〇四 イギリス 七一六 オランダ 七三二

七月一日の法定日に先立つてすでに各地の工場で深夜業廢止をやつてゐるところが隨分多いのですが、その結果の勞働能率が上るだらうか、下るだらうか、目下研究題目になつてゐます。深夜の勞働に從事せぬ樣になつたら女工さんたちが毎日潑溂とした元氣で働くから、過失も少くなるし、能率もずつと上るから、結局全體の生産能率は減るやうなことはあるまい、と初めの内はかう觀察されてゐた點もある樣ですが何しろ四六時中動いてゐた機械が人間の深夜勞働廢止と共に十一時から日時まで全く休止するのですからそれだけ減るやうです。法規が出來强制されてやつと澁々それに從ふのが普通であるのに、法定規日以前からそれを實行するなんて、資本家も勞働者の問題に理解あるやうになつたかと考へられないでもないのですがこれは營利と世間態に拔け目のない彼等は、不景氣で、作つたものも賣れにくい折柄、操業短縮をしてでも生産を手控へたいと思つて苦心してゐる所ですから、國際的に人氣の惡い――そして、人道的批難の最も大きな鎗玉にあげられてゐる夜業なんてまつ先きに止めちまへ！　といふことになつたばかりであります。

從つて生産力減退を口實にして、日給を安くしたり、請負賃を下げたり、休日を少なくしたり、何とか彼とか勞働條件を惡くして、夜業禁止のために儲けが少なくなるやうなことのない樣にちやんと對策を講じてゐます。ですから、婦人勞働者たるものは、この資本家の奸策をあばいて、强く／＼自分たちの權利を主張してたゝかふべきであります。

ベルギー	六一七	スキス	三七三	オーストリヤ	三六二
イタリー	三〇一	チリー	三〇〇	ドイツ	二九八
フランス	一七八	オニトラリア	八〇	カナダ	四五
アルゼンチン	三六				

（八）　食物貯藏法の要領

食物貯藏法の原理は、細菌や害虫の發生侵入を防ぎ、自己分解を止めることとであります、故に

1 乾燥
2 特殊の加工
3 冷藏
4 密閉

が必要です。

△乾燥――（イ）食物中の水分を減少し細菌の繁殖を防ぎ、自己分解を止める事。鰹節、干瓢、椎茸類。（ロ）細菌自體の水分を奪ひ死滅させる法。鹽漬、砂糖づけ　。

△特殊の加工（イ）加熱して細菌、害虫を死滅させる法。煮燒するとか罐詰にするなど。（ロ）化學藥品を用ひて細菌害虫を除く法。アルコール、サルチル酸、亞硫酸、クレオソート等を用ひます。（ハ）脫氣（特に酸素）して好氣性細菌及び害虫の發育を防止します。罐詰類。

△冷藏法、低温度で細菌、害虫の生活力を抑制するのです。冷藏庫、氷室等。

△密閉して細菌の侵入を防止します。罐詰、壜詰、梱包等です。

わしが國さの郷土藝術

—全國郷土舞踊民謡大會を見る—

白鳥重孝

〽玄如見たさに朝水汲めば
　　姿かくしの霧が降る

往昔會津東山の天寧寺に玄如と言ふ美貌の寺小姓が居た。青春の情に燃ゆる村の乙女等の人知れず胸を痛める日が續いた。春の晨里の乙女等は朝水汲みに事よせて、山上の天寧寺を眺めるのであつたが、心なき朝霧がたちこめて玄如の姿はおろか天寧寺の姿さへもおぼろにしか見えなかつた。

滿たされぬのぞみ——やるせない想は乙女等の口から此唄を生んだ。何と言ふ自然さであらう、何と言ふ純情さであらうか。民謡は斯うして生れて行つた。

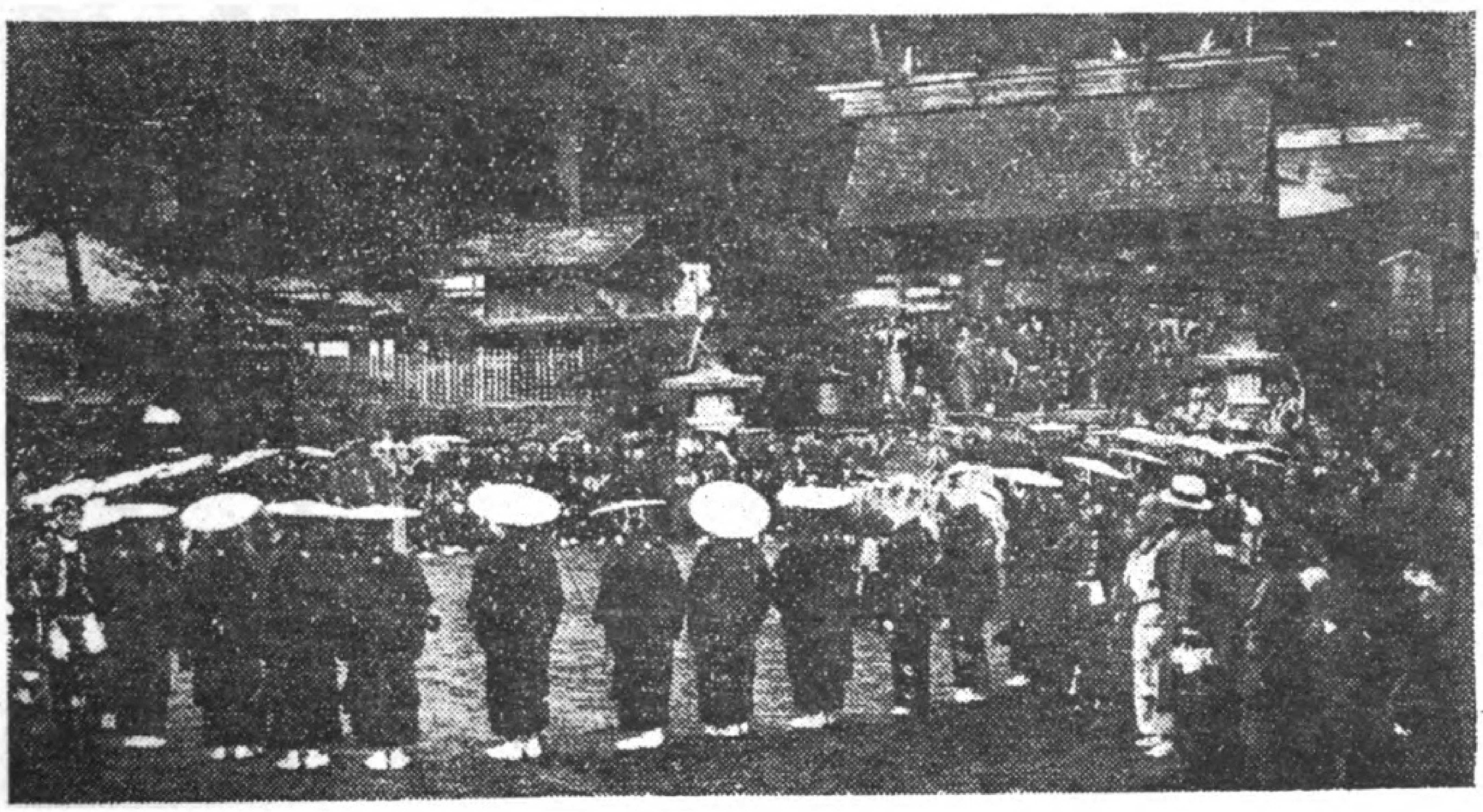
×

例年開催せられる全國郷土舞踊と民謡の大會が本年も四月十九日から三日間日本青年會館で催された。

此催しが始まつてから既に三回今回は四回目であり、本年の申込は意外に多く二百餘種に達し其の中から選ばれた『わしが國さ』のお國自慢が伊豆の祝儀踊、兵庫縣の大久保踊、福島縣の玄如節、宮崎縣の臼太鼓、岐阜縣の神代踊、島根縣のどつさり節、京都の六齋念佛踊の七種であつた。どれもこれも地方色たつぷりの郷土藝術であり、都の人達が殆ど知らぬ舞踊と民謡のみであつた。

陽春の温い都の晴れの舞臺に『わしが國さ』のお國自慢を紹介しようと、此の選まれた村の人達は冬の農閑期から、ずつと練習を續けて來たと言ふ——選ばれた村の男女をめぐつて如何に郷土の人達が力を盡したかは想像に難くない。

野趣横溢の之等の民謡を聞いてゐると、身も心も陶然として踊る人達と共に唄ひ出したい



心持に驅られるのであつた。其一端を紹介したい。

◇盆祭祝儀踊

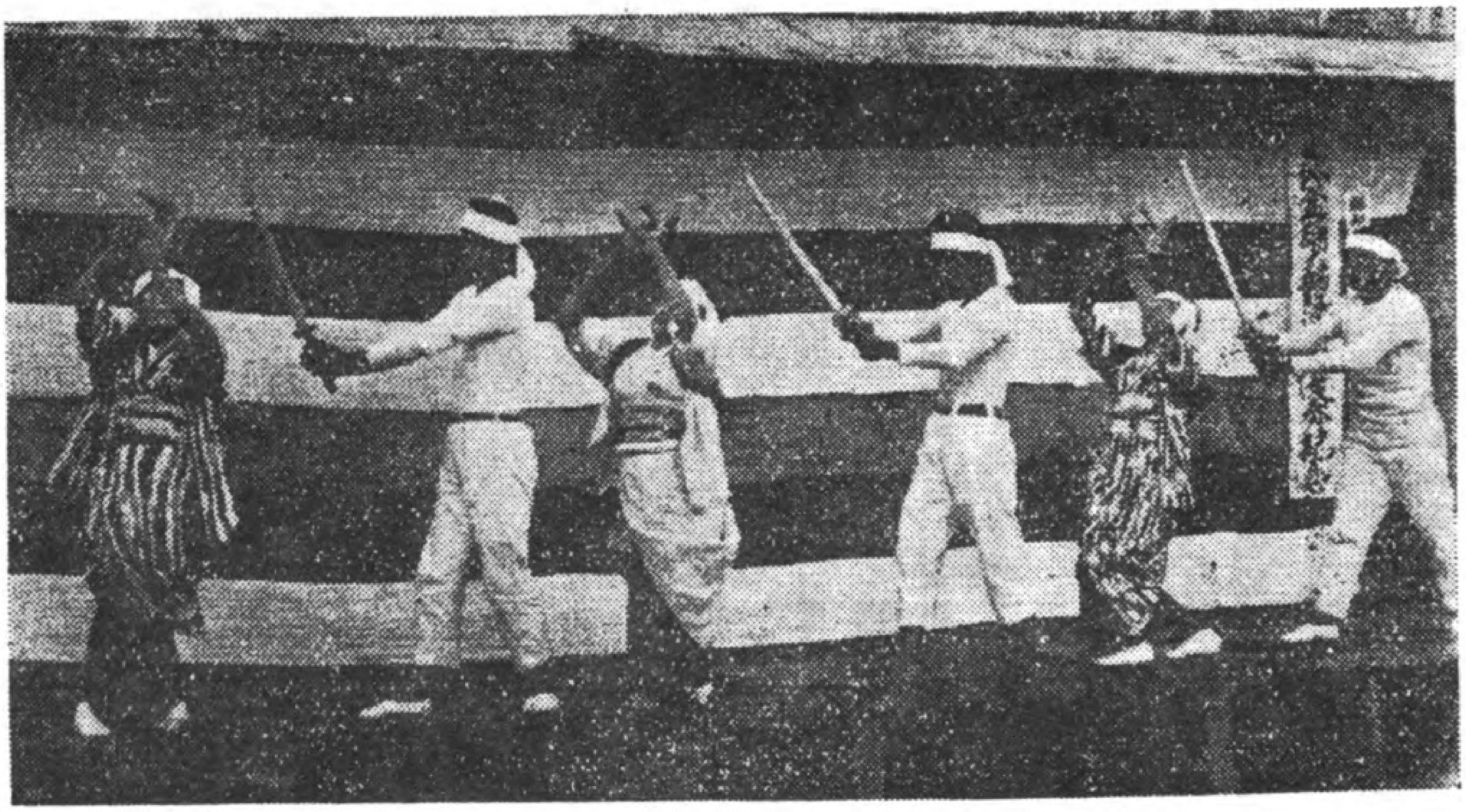
此踊は慶安年間に伊豆に流罪になつた人によつて傳へられたと言はれ、新島に於ては陰暦七月十四十五日の盆に夜でなく晝から夕方にかけて圓形になつて踊ります、舞踊者は着流しで角帶をしめ、裏折笠に中幅の縮緬の幕を垂らして面を隱し笛と太鼓に合はして踊ります。

〽一の門あきろ　二の門ひらき……

と頗る悠長に和讃の樣な調子に唄ふのです。女子は參加しません。

◇大久保踊

兵庫縣の盆踊ですが、盆踊としては全國にも珍らしいもので今度の大會中非常に活氣のあつた踊りです。雨乞踊としても行はるゝもので明治の末に一時杜絶えたのを再び復活したものです。淡路島では夜、寺院の境内に一直線に床を設け其上を踊り歩き舞臺の一方には大太鼓と拍子打ちが居り、音頭役の聲に合せて若者と娘が各々一組となつて踊ります。舞踊者の服裝は曲目によつて違ひますが、男子は白シャツ白ズボン下、女子は浴衣の裾をからげ白鉢巻に赤襷の姿で輕妙に踊ります。が『三階笠』と『淀



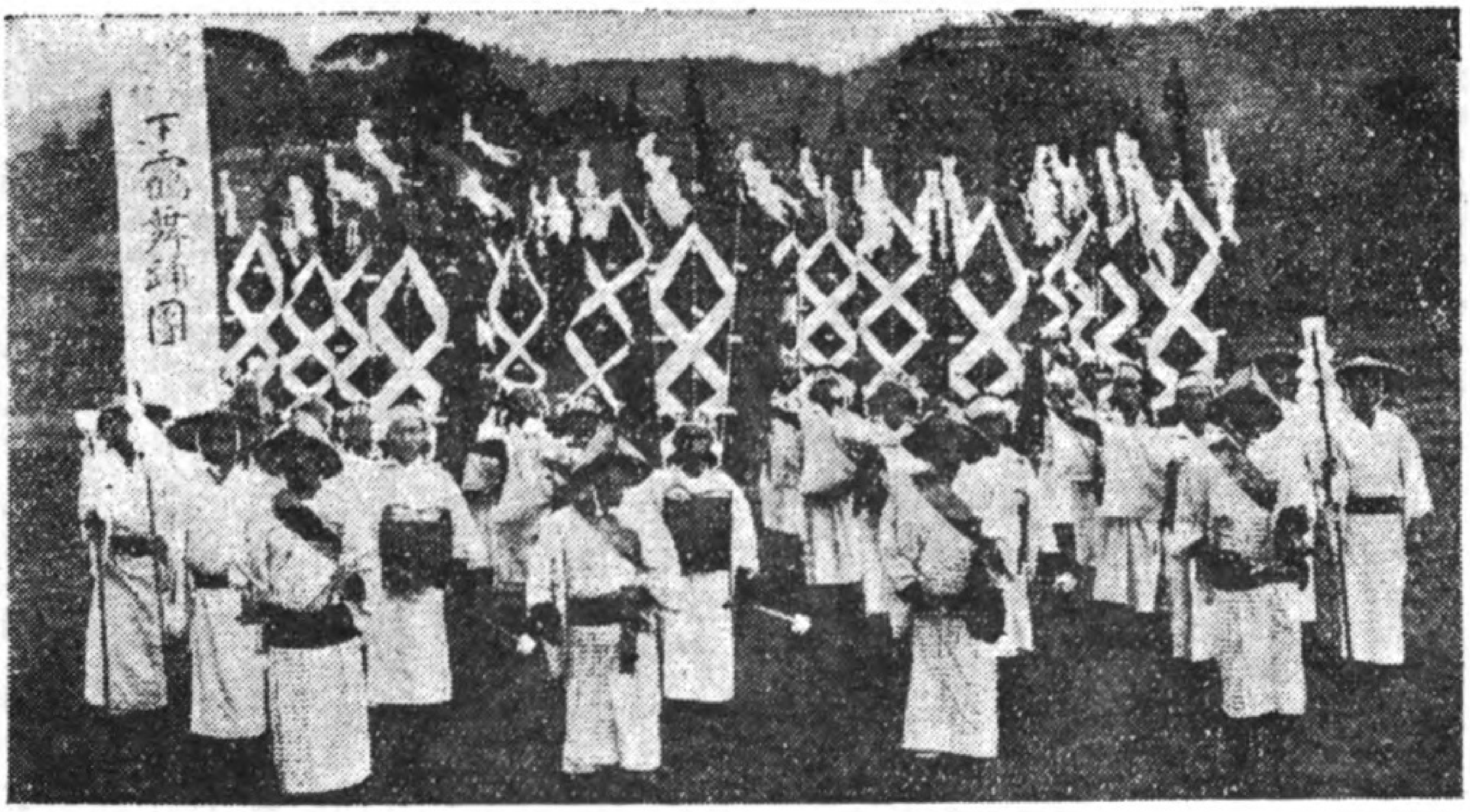
の事』は男子のみ笠を冠り浴衣着流しで笠をもつて踊ります。

〽都ならひか　お國の作法か
姉が妹の酌に出る
姉は妹の酌にも出ぬが　表お客の辭
儀に出る

土まみれになつて年から年中働く農村の青年男女にも盆踊は唯一の樂しみです、ドンドドンと神社や寺院の境内の櫓の上からは太鼓の音が聞えて來ます。黄昏の田圃道を急ぐ若い男女の姿が胸を躍らせて驅けつけて行くのを見ます。惠まれぬ農村の青年男女達にも盆踊の時節には解放せられた世界になります——大久保踊を見てゐるとさうした感じが浮んで來るのでした。

◇玄如節

掛行燈を圍んで猿袴、もんぺいをはいた仕事着のまゝの男女が入交つて輪になつてゆるやかにまはり乍ら唄ひつゝ踊るのを見た時、ほんとうの民謠情調を味はふ事が出來ました。何と言ふ『土』の色濃い民俗藝術であらうか、あの純朴な姿を見唄を聞いたら　も心も自然に歸つて行く樣に感ぜられました。會津地方でつれづれを慰め、又祭禮の夜等に踊ります。歌詞の



起原は先に述べた通りですが、

〽東山見て殿なつかしや
　殿の住ましやる山ぢやもの。

等多數ありますが他國人が容易に眞似の出來ぬ發音と情調と抑揚があると言つてゐます。

◇臼太鼓踊

今日では部落民唯一の娯樂として、又氏神の祭禮へ奉納として神社等の境内で行はれますが頗る勇壯活潑な踊りです。豊太閤が朝鮮遠征の時陣中で臼太鼓踊を演じ、敵軍之を見て我を忘れた折に兼ねて幟竿に納めた槍や、太鼓の内に隱した武器を取り一擧に攻め入つたと言ふ傳説が傳はつてゐます。

踊手は白襦袢に山袴、白鉢卷、手甲、脚袢草鞋の姿で背には丈餘の紙笠に布の幟の約五貫目の重さのものを負ひ、胸には臼太鼓をつけ唄ひ手の聲に合せてドンドコドンドコと勇壯に踊ります。

〽源氏平家の戰は須磨の浦邊と
　聞えてかゝる亂の世の中に……

唄に合はせて舞踊は○、十、二、等の文字の形に變化しつゝ縦横に踊ります。

◇神代踊

〽池田小女郎は細布織りやる
　横が足らんでまだ織れん

質朴な情趣が神代の面影をしのばせると言ふので、神代踊と呼ばれるさうであるが九月二十五日の祭禮の日に行はれます。此踊は鷄鬪樂獅子舞の二つと共に交互に行はれ晝より夜に及んで二ケ所で再度演ぜられるもので此飛驒國宮村の男子は青年期に達すると誰でも以上のものを稽古し例祭には其一つを勤めねばならぬ事となつてゐます。舞踊者は一文字笠を冠り黒の紋付羽織を着流し中央に警護役が居ります、此中に花笠をつけた女装のものが四人居りますが女は加はりません。又樂器なしで踊るので、殊更に純朴な感じがします。

◇どつさり節

隱岐名物の一つで此島の漁夫樵夫の間によく歌はるゝものです、此どつさり節にも民謠によくある面白いエピソードがあります。それは此隱岐國知夫利島の郡と云ふ港は昔は非常に出舟入舟の多かつた所であります。其當時此港に新潟舟が入つて來ましたが、若者の一人が此島のおまつと言ふ女と契り、追分節を教へてやりましたが、まだ充分に教へ切らぬ中に順風を得て舟は島をあとにしてしまひました。勿論其若者はおまつには何も語らず、男は其以後杳と

して消息を斷つてしまひました。おまつは戀の破綻に悲嘆にくれてゐたが、男に教へられた未完成の追分節をひ唄つゞけてゐる中に、ひとりでに今日のどつさり節を作り出したと云ふ事です。

〽忍び出よとすりや鳥めがつける
　まだ夜もあけぬにかを〳〵と
　憎や八幡の森烏。

悠長な調子に「サノーイ」と長く引張る様に唄ひます。

◇六齋念佛

六齋とは佛敎の方で言ふ月に六日の齋で古く此日に鉦鼓を鳴らし念佛を唱へて踊つた習はしから六齋念佛が生れたと言はれるが其沿革に就ては種々である。

毎年八月の盆の農閑期に青年達が娛樂として行はれてゐるもので、最初持つてゐた陰氣な佛敎の色彩を失つて陽氣な元氣の良いものと變つてしまひました。

曲目は頗る多數でありますが、獅子舞等は其中でも特色のあるものです。山城國吉祥院村の祭禮には村内五組近村數組が集り、午後三時頃から翌朝午前三時頃迄途中休みなしに演じつゞけるのが年中行事とされてゐます。

×

動ともすれば失ひ去られる民謠を保存せん爲斯種の復興方法助長方法に努力せらるゝ事は私達民俗藝術の愛好者にとつて頗る有意義な此上もない企てだと考へます。『唄ふ氣分は幸福な氣分である』と信じてゐる私達としては今日の農村經濟機構に於ける慘めな農民生活に對して救ふものは何と言つても『土』が生んだ舞踊と民謠の外にないと信じてゐます。昔から社會的にも經濟的にも階級的にも惠まれなかつた農民に『唄はせたい』と言ふのが私達の念願でなければなりません。

萬年筆

北村兼子

私はかなり世間の批難をうけました。まだこれからもそれが續くでせう。けれども私は一本の萬年筆で前途の草を薙いで進む自信があります。私の友だち、そのうちで一ばん私の心を知つてくれてゐるものはこれだけです。

私は汎太平洋婦人會議にも臨みました。會議では二回しか發言の機會がなかつたからハワイの二大新聞とアメリカの二新聞と日本の三新聞十雜誌へ意見を發表しました。それはみなわが親愛なる萬年筆氏の支持をうけてゐます。

私はこれからベルリンで開かれる萬國婦人參政權大會へ出かけます。それからジユネーブの勞働會議の模樣をみて、スイツツルを廻つて又た國際平和自由婦人聯盟大會へも行きます。

白樂天の詩意に、友だちは停車場まで送つてくれた、親類とは乘船場で別れた、ただ萬年筆だけが、どこまでも私についてきてくれる。アメリカへもヨーロツパへも、お前とならばどこまでも旅行しやう。

大好きな美しい秋が闌になるまでには日本へ歸つて來やう。

パリ、ロンドン、ミラノ、ローマ、トルコ、インドへも經巡しやう。

成るべく澤山の國をみて婦人運動に旅行見聞記を書かせていたゞきませう。

婦人の勞働狀態も充分に調査べて歸りませう。そして奥むめお女史の畢生の事業としてゐる「職業婦人の家」に參考になるやうな何かの材料を集めて來ませう。

亂筆失禮、亂文いつもながらと思し召せ。

では、これで——。さようなら。

また、誌上で…。お目にかゝります。

さらば、それまで、御機嫌よう。

婦人界近事

マグドナルド女史渡歐

婦人勞働者の教育に盡してゐられるエーシー・マグドナルド女史は今度國際勞働會議に勞働代表として出發した松岡駒吉氏の通譯として費用一切自辨にて同行された。その序でに歐洲各地の勞働者教育運動視察をして來られる筈。

水上生活者に教化運動

さき頃南千住橋際に「水上隣保館」を組織して、水上生活者の兒童に義務教育を徹底せしめる樣仕事を進めてゐます。

惠泉女學園開く

キリスト教女子青年會の總幹事だつた河井道子氏は、今度キリスト教主義により普通の女學校課程の上に國際教育を加味する惠泉女學園を開校しました。追つて郊外に廣い土地を求めて理想の學園にする準備中の由。

市會淨化のために聲明書

東京聯合婦人會では新市最の初招集日に次のやうな聲明書を市會議員及び、市會關係の諸團體に送りました。

「私共婦人は、愛市の熱意に依り新市會に對して、極力覺醒の實をあげられむことを誠心誠意祈つてやみません。特にこの際、政黨政派の弊、待合政治を絶對に打破し、市吏員の職能を尊重して、眞の自治體の職能を發揮されんことを三十七加盟團體より成るわが東京婦人聯合會の會員約十萬の婦人の願ひとしてこゝに聲明します」

婦人勞働者のために聲明書

勞働婦人聯盟と社會民衆婦人同盟は、わが勞働代表松岡駒吉氏に託して次の樣な聲明書を國際勞働會議に送つた。

「わが國の婦人勞働者は年少者が多數で自ら改善してゆくことは困難で立法手段に俟つことが多いから、來るべき第十三回總會には、婦人の問題を議題とせられむことを切望す」

五年つとめた娼妓を解放

松本市外横田遊廓では、同地赤羽署長の要求を入れて、五年以上つとめた娼妓に對しては、毎年四月、無條件で解放することにしました。歸郷できない者に對しては署長がアッセンして就職させる由。

すでに、本年度の分十名の前借六千圓棒引きにして廢業させました。

少年保護デー

司法省では、少年保護事業規則施行の七週年を記念して、四月十七日、少年保護について大々的な宣傳を行ひました。

禁酒法記念デー

四月一日は未成年者禁酒法實施の七週年記念にあたるので大々的に宣傳を行ひ次のやうなビラを撒きました。

子は寶、酒は毒

大切な國の若芽をアルコールで枯らすな

この法令を實施以來昨年末までの違反件數一三一、三一六件といはれてゐるが、警官の取締が未だ嚴重でないのに依るだらうと云はれてゐます。

東京モスリンの罷業

東京モスリンの女工二千五百男工四百は半請負制度の賃銀制に反對してストライキを開始しました。

爭議の中心點は、一千二百の女工のゐる織機部でこれまで全然請負制度にて一ヤールの織り賃一錢八厘乃至一錢の勞賃をとつてゐたものが、改正された新制度の半日給半請負制では一日に四十錢から五十錢の定給の上に、生産高に應じて査定額を下げて請負賃が拂はれるので結局實收入はぐつと減るといふのであります。

會社側では不景氣な折柄廢業しても戰つてゆくと聲明して、すでに幹部七〇名を首切り、閉め出しを喰はせたので事態は一層惡化した。爭議團では早速七千餘圓を積み立てゝ持久戰に入りました。

日に渡りましたが遂に會社側が讓歩して戰ひをとぢました。

藝妓が殖えてゆく

東京市内外に二業地三業地の新許可地が多くなつたものだから藝妓數はだん／＼殖えてゐるといふ調べ。

乳兒の死亡原因

滿一ケ年までの子供の死亡率が最も高いのであるが、その原因を調べたところに依ると――

原因	一千人についての%
先天性弱質畸形	二三〇
下痢及腸炎	二〇〇
肺炎及氣管支炎	一六〇
腦膜炎	七〇
乳兒固有疾患	四五
急性氣管支炎	四〇
脚氣	二五
百日咳	一七
ばい毒	一五
はしか	一五
腎臟炎	一〇
胃病	八

二ケ月間の爭議件數

内務省社會局の調べた所に依ると一月二月の二ケ月間の勞働爭議件數一五五件、これに參加した人員總數一八、八一四人とのこと。

機械器具製造工業	三三件
化學工業	二四
飲食物製造工業	八
瓦斯電氣工業	二
土木建築業	六
染色工業	一七
鑛業	三
雜工業	三六
運輸業	一二
その他	一四

それらの要求條項は、

賃銀增額	三五件
減額反對	一一件
その他賃銀制度改正	二件
勞働時間短縮	三件
監督者排斥	三件
解雇手當の增額團結權の確立	二八件
その他	

京都帝大の結婚媒介

京都帝大學生主事岸與祥氏は學生の將來のために今度結婚媒介を始めた。大學での結婚媒介は全く新らしい試みだけに大學内でも一般社會からも非常に注目されてゐる割合に好成績で、近く九大でも同樣の方法で結婚媒介を始めるとのことである。



校長氣質とモガ教師

栗原京子

1　S校長　年齢　三十五
（女子附属出）

校長「あなたが今度この學校に赴任されるに當つて、特に御注意しておき度いと思ふ事は、ここには、今まで本正の女教員がなかつたのです。女の先生といへば、裁縫を教へるか低學年を受持つ能力しかないものだといふ樣な考へが一般にあるんだね。從つて女兒の教育にさういつた考へが非常に影響する。それではならないと、僕は赴任以來この一ケ年といふものつく〴〵考へました。そこで本年度は、學務員から村會の方に盡力して貰ひ、僕は附屬の主事に特に願つて、しつかりした人物といふことで、あなたに來て頂いたわけです。一個の先生だといふ自重の下にしつかりやつて、女の先生の力といふものをどん〳〵現はしていつて下さい。」

K子「出來るだけ致します。ですが先生、私には皆の先生がとてもえらく見えてなりません。何も彼も當分は御指導戴かなくてはと思はれます。自重はするもの丶、やつぱり解らない所、足らない所は教生の時のやうに指導して頂き度いと思ひます。」

校長「何や彼やら取込んでゐるので直ぐとは行かないが、その中に職員會を開きますから、あなたの考へを皆の先生に聞いておいて貰ふこともいいでせう。」

K子「どうぞ宜しく何事もお願ひ致します。」

×

K子「私はどうした事か自分の氣持に始終、引つか丶りを

感じて居ります。何といつて說明したらいゝか分りませんが斯うして日每敎壇に立つて子供に接して居りながら、敎具とか、敎法とかいふことより他に何かもつと重大なことがあるやうな氣がしてなりません。」

校長「それは哲學だね、僕はこの年になつて初めて哲學概論を播いてみたが、それも遂最近の事であなたなどに比べるとお恥しい話だが。」

Ｋ子「哲學概論て、私などにも解りますか。」

校長「僕もまだ忙しいので十頁程しか見ないから何ともいへないが、第一言葉がむづかしいね、その上考へ考へ讀まなければならないので、僕にはなか／＼はか／＼しく行かないよ。」

Ｋ子「さうですか。私も解らないながら、讀んでみたいな。先生、著者や發行所を一寸調べさせて下さい。」

×

校長「昨日の職員會に、あなたは大分氣焰をあげたさうだね、最初の職員會だとは思ひながら、農繁休暇は目前に迫つてゐる、僕は郡役所の方へ出張しなければならなかつたりしたので、留守を主席の〇〇さんにお願ひしたわけなのだが、結末がうまくつかなかつたさうだね。」

Ｋ子「えゝ、どうも、私は今だつて何とも思つて居ないんですが主席の先生、私の言つたことを、大變曲解だか誤解だかしてお取りになつたらしいのです。實は斯ういふわけです。この農繁休暇を利用して他郡へ學事視察に行くことになつて居りますが、皆さん何處に致しませう。御希望の所を仰しつて下さい。しかし女の先生は例年通り、女子師範にでもゆつくり參觀にお出でになつたら如何です。と〇〇さんてんから仰しやるんでせう。私は古參の方をさしおいてとは思ひましたが、あまり親切ごかしの子供だましといつた口ぶりなのでつひ生意氣にも〇〇さん私には學事視察といふ意味がよく解り兼ねますといふやうな事をいつてしまつたのです。そして行きがゝり上、世間が狹いとか、實力がないとか言はれる女の先生も斯ういつた機會を逃さずに御指導戴けたらいくらかづつでも向上して行かれるだらうと思ひますがと申しますと〇〇さん大人げもなく逆上して怒つてしまはれたんです、△△さんがまあ／＼と〇〇さんをなだめられて、職員會はおじやんといふわけになつたのです。」

校長「〇〇さんも糞眞面目の性だから氣が立つたのだらう

さういふ事だつたら、僕さへ居れば、文句はなかつたらうに。」

2 M 校長　年齢 三十九

校長「男の先生が居られちや氣まづいことだらうと思つてあなた方だけに殘つて貰つたのだがね、××さん、あなたは額が白過ぎやしないかね、それから××さん許りぢやなく若い女の先生方は、額へ被せた毛を何とかもう少し引上げちやどうかね、女の先生なんといふものは、村人や、青年などの眼に特別止まるものだからね、着物の柄にしろ、色合にしろ、餘り華美なものは止した方がいいだらうと、老婆心乍ら、あけすけに思つたまゝをいつてみたわけだが皆どう思ふね。」

K子「先生があけすけにいふと仰しやいますから、私も安心して思つた通り申上げます。實のところ、私は斯ういつた個人の些細な問題について、校長先生だからつて、干渉されたくないと思ふのです。白粉をつけやうが、髮毛で額をかくさうが、自分がしたいと思ふことは、他人から彼此いはれてもかまひません。その代り、馬鹿らしいことだと、自分から氣がつく時もあることだと信じてゐます。先生、若い人達の氣のすむ樣にさせて置いて下さい。そして何事にも責任を持たせて下さい。皆さん如何です。」

×

校長「Kさん、あなたは體操の號令をかける時、どんな姿勢か御存じかね。」

K子「不動の姿勢だと思ひますが。」

校長「不動の姿勢には相違ないが、あなたは兩手をいつも後に廻して居られるね。あなたは無意識にして居られる事が××さんなどには斯うするものだといふやうに信ぜられて、あなたの姿勢を見倣つて居ますよ。」

K子「……氣をつけませう。」

3 O 校長　年齢四十三　後年辯護士

校長「Kさん、あなたは教案を略案に書いて居られますね。やはり方法も具體的に書いておかれた方がよいでせう。」

K子「先生方の御經驗に比べると、私などの經驗は物の數でもありませんが、それでも私だけの經驗の數へる所では、密案はいつも馬鹿らしいものになつてしまふので、近頃では密案は書きません。」

×

校長「女子の洋裝について、僕は尚早論者ですがね、Kさん、現在の環境では、洋服は不便を感じませんか。」

K子「さうですね、村の人などは、たしかに奇異な眼でぢろ〳〵私の姿を眺めたりする樣ですが、自分としては、さういつた所へは餘り意を用ひて居りません。二重生活といつた所で、之は特に女子に限つた事ではありませんし、やはり輕快で、便利でいゝと感じて居ります。」

校長「あなた一人はそれでいゝとして、服裝改善といふ問題を一般的に見た場合どう思ひますか。」

K子「服裝改善と云へば、其の人の生活に尤も適した、尤も便利な事が第一條件でせうから、その意味でどんな洋裝でもいいと思ひます。必ずしも歐米を眞似なくとも、着心地のよい、活動に便利なもので、然も經濟的なものなら、安月給取には適當してゐるのですから、大いに宣傳する必要があらうと存じます。」

4　B　校長　　年齢　四十八

校長「今度縣視學の巡視があるから、特に申すといふわけではありませんが、Kさんあなたの服裝はどうですかね。」

K子「何故ですか。」

校長「あなたはまだ縣令などゝいふ方面は研究されて居らないやうだが、縣の規則では女子の服裝を特に洋服着用とはいはれてありませんがね。」

K子「でも先生、特に女子は洋服着用すべからずとは御座いませんでせう。かりに洋服がいけないといふお叱言を頂いて免職されるならされるだけのことです。」

校長「あなたのやうに思へば、それまでの事ですがね。」

×

K子「校長先生、あの古机の下に、教育の世紀の新しいのが、古雜誌の中にありましたから、見せて頂きました。」

校長「あの雜誌を讀んで、どんなことを感じましたか。」

K子「私には大いに共鳴される所が、たくさんありました。あゝいつた雜誌なら、今後講讀しやうかと思つて居ります。」

校長「あの雜誌は左傾してゐますからね。あなた方のやうな若い方は餘り讀まれない方がいゝと僕は敢て忠告したいですね。」

K子「…………」

5　A　校長　年齢　四十三　東京市内

校長「區役所の△△さんに逢つて來ましたね、俸給の事を△△さん何とかいつてましたか。」
K子「いゝえ別に。」
校長「さうですか、どつちにしても充分といふ程は上げられないが、あなたとしては、どれ位ならいいと思ひますか。」
K子「さう申されますと、一寸困りますがまあ一人前の女の生活費だけとでも申しませうか。」
校長は苦笑し乍ら「そりやさうですがね、市內では代用となると六〇圓が最高ですからね、外の方との釣合も考へて、五五圓に△△さんの方へ申しておきますから、△△さんのお考へを伺つた上でなくてはまだ確定したわけではありませんよ。すみませんが、この手紙を持つてもう一度區役所まで、行つて來て下さい。」

6　T　校長　年齢　三十七　某縣下の片田舎

校長「あなたは、お子さんを旦那さんに預けて勤めに出られやうつてんだね。」
K子「時と場合には之も止むを得ないと思ひます。」
校長「あなたが學校の方が遲くでもなつて、五時六時になつても歸られない、乳吞兒の泣くのを抱へて、男親が家で待つて居るやうな事があつたら、斯りや悲慘だな。」
K子「それは考へやうだと思ひます。大の男が安給料の爲に朝から晩まで、腰辨で、その上御無理御尤で勤めなければならないとしたら、これだつて餘程悲慘だと思ひますがね。」

×

校長「あなたの今着て居られるのは、僕ははじめて見たよ。女が洋服を着る時には、みんなそんなのを着るのかね。」
K子「このオーバーセーターですか。これは必ずしも着なければならないといふ事は、ありませんが、寒い時は着た方が暖かいから着るのです。」
校長「僕らの方の子供は、洋服は近頃女學生が着てゐるから、何とも思はないだらうが、そいつはどうかね、餘り變つたものだからな、變に思ふだらうよ、村の人にしてもな、勝手がましい事だが、成るべく學校へは着て來られない方がいいね。」
K子「………」

子供ごころ

須藤垂枝

私は、今まで小學校の低學年を受持つた經驗がなかつたが今年は代用教員として補缺の意味で尋常二年の男生を擔任しました。

受持兒童には、父母兄姉を學校教師としてゐるもの數名、後は殆ど百姓と鑛山人夫の子弟であります。彼ら幼きものゝ平生の言語、動作によりて母親なり家庭の樣子が伺ひ知られるのは、如何にも彼らが無邪氣であり、何の關心もなく、何でも彼でも私に打ちあけて呉れるからだと思ひます。

朝の第一時間は、殆ど彼らの家庭の生活の報告であり、昨夕から今朝までに起つた友人たちの行動のあらましが發表されます。

私はこゝに子供らの家庭の生活が自づと伺ひ知られるやうな報告の幾つかを拔き書きしてみませう。

先生、うちのお母ちやんはのう、甘酒こしらへてくれたけんど、鹽ばつかりたんと入れて、砂糖をちつとしか入れねえもんで、鹽つからくてしようが無え。

先生、僕はお母ちやんに袋ごとお菓子を貰ふことを知つてゐるよ。僕が學校でして行つた算術なんかを、上をいどつて（上なすりして）ゐると、ほら大へんよくした、ほらお菓子をやるつて呉れるんだよ。

先生、うちのおばあちやんは、いやでしようがねえ。今日もおべんたうの中へおこうこうをいれて寄こすんだもの。卵やきだけでいいつていふに、何時だつて入れるんだもの、僕は毎日捨てゝしまふんだよ。

先生、僕のお父さん鑛夫だけんど、僕は鑛夫になんぞならないで、自動車の運轉手になるんだい。そいでお金をうんとためてお母さんを樂にさせてやるの。うちのお父さんは、前借りしてお酒をのむんで、しようがない。

先生、おらあ、おばあに錢呉んろつても、くれねえ時は、くそんばあめ、錢呉れねえと、はり飛ばすぞつて言つたことある。

先生、先生もおべんたうのおさいに毎日梅干だのう。おらも梅干だあ。

先生がおこうこうは齒が綺麗になつたり、こなれがよくな

るつていつたから、おらあ毎日おさいはおとうこうだい。

先生、今朝のう、おぺんたうのおさいにおこうこうはいやだから川のりくれつていつたら、叱られちやつた。

先生、××さんたち、△△君たちと餅拾ひに行つたもんで××さんのお母さん、泣きながら僕んちへ提灯つけてききにきたの。××さん、ゆふべ叱られたづら。

いや、叱られないよ。ゆふべちようどお父さん、夜學で歸らなかつたんで、叱られなかつた。そだつてのう先生、□□君明るい中に投げるんだから、家へ行つて來ちや間に合はねえなんて、おどかしたんだもの。

先生、ぼくは七時すぎに歸つたけんど、そんなに叱られなかつた。餅は七枚きや拾はないけんど、××ちやんはたつた二枚さ。

先生、長瀬君はすげえの（すごい）お母さんによばれたら、そつと裏口から出て、あつちの方へ行つてあそんでるの。

先生、おらあ、さかなすきだけんど、ちつともくつたことねえ。

先生、うちのおとつちやん、こつちぢあ仕事がねえつて東京へいつてはたらいてるの。大工さんさ。お正月にも來たけんどすぐ行つちやつた。

先生、うちのおとつさんは、今あそんでゐるの、ふだんは山なんか切るんだけんど、仕事がねえから、おれあうどんなんかすきだけんどうちぢあ、あんまりくはねえ、朝はこうこう。ぺんたうもこうこう夜はたまにおつけとはんば（海藻のりに似たもの）をくはあ。

先生、うちのおばあさんは、今日もこんなにしそのはつぱばつけえ入れてよこしたよ。先生がしそつぱは血をたんとにするんだつていつたとおばあさんにいつたもんだから、おばあさんいい氣になつてこんなにいれたんだ。先生ぼくはしよつかれいから今日はのこしてゐつてもいいのう。

先生、ぼくは、朝寢てゐる中に、かしを食べなきや起きなかつたけんど、先生がむしばになるつてゆつてから、一度も寢床で食つたことねえ。

先生、ぼくのおとつちやん、ぼくの六つぐれえの時、血をはいて死んぢまつたよ。おつかちやんが次郎とぼくを食はせるんで骨が折れるから、ぼくは何でも自分でよういして學校へ來るんだよ、あまつたれりやうちのおつかちやんに叱られらあ。

先生、ぼくは昨日活動いきたかつたから、おつかあが山へ行つて、留守だもんで、錢とり出して活動へ行つたあ。そだけんど叱られなかつたつけ。

先生、△△君はのう、きんのう山へあそびにいつてちんぼむくつてよめつこもらんだつて、すけべえなことしたよ。このあひだもちいせえ子に、まくつてみせて、先の方を指でつつつかせたりなんかしたんだよ。

先生、おれにも耳垢ほつとくれ、おらあちつともうちぢやほつたことねえ、耳の穴がかゆくてしようねえ。

先生、右の方の手の爪がおらには切れねえ、切つて下つせえ。

先生、おれの足はきたねえけんど、おやゆびの爪切つて下つせえ、うちのおつかあ、おれがいふとうるせえつて叱られらあ。

先生、おらあ、お父つちやんと昨日の日曜に炭やきい行つたあ、炭やきあ面白え、おら大きくなつたら炭やきするだあ。

伊豆の南端下田港を距る二三十町の所にあるこの村は、鑛山の外に蓮臺寺、河内の兩湯泉を控へて居ることゝて、半農半商といつたやうな所もなり、薪炭、竹類其他を山から出して河を下して生活を營むもの野菜類を負出すものなどあつて村人の生活は極めて多種多様であります。人々の氣風といふものは一般に純朴をかき、上べをかざるといつた所がみえます。從つて學校の敎師なども、その風を體得して居り、毎日の授業もお祭りさわぎの年中行事のためにしてゐるといつたやり方です。その實例は、敎師の八九割までが村人出であるに拘はらず、鑛内の如何を知らうとせず、鑛山の長屋生活のやうすも全然知らないですましてゐる。然も彼らは月に必ず一包は、旅館の湯槽につかつて三十何圓位の月給とりでも二圓内外の會費をおしげもなく拂つてゐます。

就職難はへんすらなこのやうな小學兒童にまで及ぼしてゐるといふことは、都會と何の變りはないやうであります。自作農が小數になり、小作さへつくれなくなるとつたお百姓さんの慘めさ、鑛山長屋のかみさん達の子供ばかり殖えることを喞つ聲は、依然として世界的な動きの中にあるのだなといふことを思はせます。單なる感傷的な同情をすることは出來ても、大きな運動を自覺しないことほど腹立しいことはありませんね。

エス先生に

松澤光子

私の體も餘程快くなりました。送つて頂いた聖書は毎日讀んでゐます。殊にあの「山上の垂訓」の所は何度もよみました。誰も怨むまい、誰も憎むまい、自分さへもつと寛大に、親切であればよいのだ。聖書を讀んでる間はこんな殊勝な心になるのです。けれど、讀み了るともう駄目なのです。

今丁度眠りから覺めた所です。眠る事はいゝ事で御座いますね。少しの賃銀で、やつと命をつなぐ位の食物を與へられて、地獄のやうな苦惱に喘いでゐる女工でも、眠つた時だけは、苦惱から救はれて居るのではないでせうか。强慾な獸の様な工場主も、享樂に日も尙足らぬイヴアンの王國では食卓につく事を許されぬ様な婦人でも、眠つてる間だけは美しい心でせうね。私も眠つてる間だけは憎む心も呪ふ心も失せてゐます。私は今目を覺してこんな事を考へてゐるのです。

今日は只一人です。昨日からの秋霖はすつかり晴れて、とても好いお天氣です。澄んだ空を渡る渡り鳥の聲を聞き乍ら六疊間に一人寢てゐます。母は昨夜眞夜中からお産に呼れて行つて未だ歸りません。そぼ降る秋霖の中もモンペにゴム靴をはいて、迎への人の提灯の後からついて行つた老ひた母の姿が私の瞼を熱くします。私は母がお産に行く度に「すまない」と云ふ心が痛い程私の胸を刺します。

六疊間に小さ臺所の付いた、電燈もない百姓家の合借家に病む子を抱へて老ひた體で産婆を始めた私の母！ これが私の家にきて、三十年の忍苦の生活を送つた母の、眞當の生活であらうか？ と私は思ふのです。

「入る家や、食べる物に困らないだけ仕合せと言ふものだよ。私はお前の家にきてこの二年程のん氣に暮した年はない。」母は滿足さうに微笑して言ひます。

母は眞當に寂しくないのだらうか。離るべき運命に居たものが離れたと思へば仕方もないが、母の周りは餘りに人少くなになつた。それでも寂しくないのだらうかと、私は思ふのです、三十年の忍苦の生活の報ひとして得たものは、矢張り後妻としての母をそしる聲だけでした。

繼母と言ふ言葉は、あらゆる世の冷い監視と憎惡に包まれて生きて行く女の上に名付けられた言葉の様に思ひます。貧

しい小學校長の妻として、三人の子の繼母として、二十代の若さで嫁いで來てから三十年、五人の子に相當の敎育して白い眼で見る人を見返さうと只働いたのでした。秋から春先迄は母は薪を買つてたいた事もなかつたのです。秋の落葉期には半年分の柴を山から拾つたのです。餘つて賣る程の野菜も作つてゐました。秋蠶と言つて夏休みには蠶もかつたし地織木綿が丈夫だと言つて機も織つて居ました。併し何をしても曲解されてゐたのでした。自分の子二人の爲だものと、誰もが言ひました。

　割合豊かな士族の家に育つて幸福だつた母は、初婚に破れたのが生涯の運命を狂はせたのでした。

　殊に兄が、某專門學校が駄目になり、新に高等學校から大學に行つて又駄目になり、とう〳〵愛人の元に去る迄、何が事件の起る毎、世間の人の母を批難する聲が高くなりました。「繼母だからあゝなるのだらう。」と言ふ聲が、痛い程私の耳を打ちました。勝氣な母に仕へた兄姉達も隨分辛かつたでせう。眞當の母性愛を知らぬ兄姉たちは惠まれぬ人々でした。それ故にこそ私は、そこを慰めて行くのが私の務めだと思つて大きくなりました。私の幼い日のトルストイアンの樣な夢は、血のつながりのない母と子が、眞當の暖い心で相見る日を祈る、その實現を願ふ夢だつたのでした。

　私は何かある度に涙を呑んで母をつぶして來ました。私が十九の年から働いて得た報酬が、兄の學資の足しになれば、私が働く事も無意義でなくなるのだと思つてゐました。學校の試驗と言ふと、私は一打の鉛筆を兄の爲にけづつて彼の筆入れに入れたものでした。「原書を買ひたいから――」と兄が言ふ時、其のお金は兄が東京の愛人の所に行く汽車賃になる事を知つてゐても、默つて出して後で泣いたものです。「職業婦人なんて眞平だ。俺は職業婦人などはワイフに貰はないよ。」これが職業婦人として働く妹の金を費つてる兄の言葉でした。

「でも兄さんは職業婦人の働いたお金で學士樣になるのぢやないの。」さう言つた私は、込み上げる涙をぐつとこらへたのです。併し私は失望はしなかつたのです。憎らしくなつても憎むのは腹違ひだと考へるからだと思つて憎むまいと努めました。世人から、後妻の子として變なそしりの言葉を受ける時も、悲しくこらへました。何時か！　何時か！　屹度兄姉達が心から私の母を「お母さん」と呼んで呉れる日があるだ

らうと、夢見て居たのです。兄姉が私の母に對して、一寸とした感謝の言葉をもらした時、そして母が、心から兄姉を心配した樣な口吻の時、私は眞當に嬉しかつたものです。けれど駄目でした。夢は矢張り夢で終らねばならなかつたのです。二年前大學を半ばで退かねばならなくなつた兄は、そのまゝ東京の愛人の元に去りました。そして又あちらの大學に入つたさうです。聞けば愛人と一緒になる約束の一つの條件は、大學を出たら父の亡い愛人の家族を後見して出來る丈補助する事だつたとか。所が兄がまだ卒業出來ないので色々向ふの家族と面白くない感情がかもされて居ると言ふ事です。一筋に戀に狂ふた兄は、父のないこちらの家族の事は考へてゐなかつたのでせう。けれどこんな事は當然の事なのでせうね。けれど私は思ふのです。向ふの家族をみてやる爲に、こちらの親姉妹をかへり見ないのが、眞劍な戀とは言へまいと思ふのです。戀のためには、親も家もすべて捨てる程眞劍でなければいけないと言ふものゝ、殊更さうしたから眞劍だとは言へまいと思ふのです。私はいけない事だとも言ひ切れないしいゝ事だとも言ひ切れません。

今の最高學府を出た人には、こんな主義、思想が流行るのではないでせうか。隨分そんな話を聞きます。新舊思想の衝突ばかりでなく、今の教育が餘りに知識を授ける事にのみ重きを置いてるからではないでせうか。

知識はなる程、最高學府を出た人だけあるでせう。併し人格の點に、精神生活に於て、日に一文字なき人にも劣る人がないと誰か言ひ切れませうか。併し最高學府とは、豐富な知識を持つ機械を造る所、學士といふ肩書を賣る所、と言ふなら仕方ない事です。去るべきものは去りました。殘されたものは矢張り母へのそしりの聲でした。私も此の春から病でつとめを退いたのです。

先生は何時も祈れと仰有いましたね、先生がこんな境遇にいらしても、矢張り憎まずにいらつしやる事が出來ませうか。先生なら、憎まずにお祈りになりませうね。私は矢張り凡人なのでせう。私は報酬も望まない、ほめられやうとも思はない、たゞせめて惡口だけ言つて呉れなければよいのです。私が無理なのでせうか。繼母なるが故に、一生を世の人の憎惡の聲の中に死んでゆく母が可愛想です。

×

私は一氣に此處迄書いて來ました。そして何だか氣持が惡

くなりました。憎む事はこんなに氣持ちの惡い事なのです。聖書を讀んだ時だけで無く、何時も人を憎まなくなる樣に努めませう。

　聖フランシスも最初から聖者でないと聞いてゐます。愛は努力なりとか。私も出來る丈憎みの心の失せる樣に努力しませう。昨夜も母と二人で、聖フランシスがアダミアンの御堂の修繕にゆく所を讀みました。母は此の頃から云ふ事を讀むのを喜んでゐます。人間はやがて死ぬ事を考へ、死ねば永遠に邂逅ふ事の出來ない事を知る時、私たちの憎む心が少しづつ失せてゆく樣です。因業な地主も、殘忍な工場主も、此の事を考へたら、憐れな小作人も慘めな女工をも愛する心が湧くではないでせうか。知識の化物を作るやうな今の敎育も、宗敎を加味したら幾分救はれるではないでせうか。私も亦働かうと思ひます。體の快くなり次第に。職業婦人など！　さう言ふ冷い眼で見る人には見せおいて、やがて來るアカツキを信じて働きませう。

母の日記

吉村とり

久し振りな春枝さんがたづねて見えた。お互ひに顏をみ合うとすぐ、

「貧乏なやりくりに追はれてゐるものだから、中々、訪ねてゆきたいと思つてもマヽにならないねえ。」

と、語らぬ言葉の内に心と心で謝し合ふのであつた。どつちがどつちを訪ねてゆくのであつても、そんな場合にはきつと、飛切り嬉しいことがあつたときか、心配事で自分の心だけには脊負ひきれない樣な破目にゐるときか、又は借金の依賴とかの有がたくない用事に餘儀なくされた場合ばかりである。

　今日も春枝さんは、やうやうに話を切り出して云ふことに

「どうしても一〇〇圓の金子が要るの、こゝ三日の內にそれが調達出來なかつたら、私ほんとうに申わけの立たない事情になつてゐるんですが、あなたの手で何とかお願ひできないでせうか。」

「一〇〇圓？」

「えゝ、どうしてもこゝ三日の内に拵へなくちや困るの。きつと返すわ。返すあてはちやんとつけてあるのだから何とか出來ないでせうか。」

「私にその金子が有るわけは勿論ないけれど、どうして返すの。」

「私、隔日に家庭敎師に行つてゐるのよ。そこから二〇圓の月給を取つてゐるからそつくりその金子を返すことにして、五ケ月月賦で返濟したいと思つて――」

私は、そんな話しをし合つてゐる内にすつかり憂鬱になつてしまつた。三人の子供の母さんである春枝さんは、良人が失業してからある雜誌社の婦人記者となつて稼いでゐる。時間的にきまりのつき難い雜誌の編輯事務の仕事は、毎日おそくなり勝ちで、成べく子供たちの淋しがつてゐる夕方に歸つてやりたいと氣を焦ら立たせてゐるのだけれど、さう出來ない方が多い。子供たちに朝起きてから學校と託兒所へゆくまでのほんの二時間か三時間かを滅茶苦茶に愛撫してやつてゐるばかりで、夜は大抵、淋しさうに、然し無心にすや〳〵とすでに寢入つてゐる三人のわが兒の頬べたに一つづ淚を流し乍ら頬ずりをするのがせめてもの春枝さんに許された慰さめであつた。

「今日こそ早く歸れたと思つて、大急ぎで歸つて來たのに、子供はいつもより早く寢ついたさうで、私は、家に歸つて急に空虛な心で、淚さへ湧かず嘆息しました。」……こんな手紙を時折貰つてゐる私は、かねてより春枝さんが大抵の夜おそく、子供がねてしまつた頃に歸つて來て、そのために一層憂鬱になつて夜を泣きあかしたりするのをよく知つてゐる。それなのに、いつの間にか、春枝さんはムリな時間を工面して隔日に、家庭敎師の仕事をさへとつてゐたのであるらしい。

「あゝして、斯うもして、と先きのあてをつけつゝ働いてゐるのさへ、見えすいた貧棒と鬼ごつこの生活は、ほんとうに堪らないことであつて、そのために私たち無產者は每々どれ位暗くされてゐるか解らないのに、春枝さん、あなたの樣に一週間に三日といふ夜を、やうやうにして時間の工面をつけて働きに行つて、而もそれから得るお金子はそつくり借金の埋合せに入れる――

考へただけでもあんまり堪らないことぢやありませんか。そんな時間があつたら三十分でも早く家に歸つて、子供のそ

ばにゐてほしいわねえ。」
「私だつて、そんなに出來たらどれ位嬉しいか知れません。それが出來ぬのだから仕方がないぢやありませんか。第一、社の方を早めに引上げて家庭教師の口にまわる工面だけでも隨分つらい算段なのです。」
「…………」
「今日まで、六ケ月といふもの、その方の收入はみなそんな風な借金返濟にずつと入れて來たんですよ、やつと又、新規な借金で一凌ぎつけやうといふ處なのだけれど。」

×

然し、春枝さんばかりが不幸であらうか。この不幸、あゝ私は、自分の心への救ひがほしい。

今のやうな社會に無產者として生きてゆくのに、稼がなくつては食つてゆかれない世に、子供たちは何故あゝも聞きわけ悪く母ちやん、母ちやんと私をなつかしがるのだらう。私に纏ひついて〳〵、朝も晩も、起きてゐる限り私の姿がちよつとでも見えないとあんなにも探しまわつて泣くぢやあないか。

「母ちやんは、忙しいのよ、みいちやんはお悧巧だから、大人しくおルスヰをして待つてるのね。」

と、口ではきびしくはねつけつゝ、

「あゝ、母親がゐなくても、子供はまつ直ぐに、元氣に育つといふはつきりした確信が持ちたい。」

私も、子供の頭をなでつゝいつも云ひ聞かせることであるが、無心なみいちやんが何時になつたら私の心を聞き分けて與れることであらうか。

「みんな忙しいのよ。こんな貧乏な母ちやんの處へ生れて來たんだから、みいちやんだつて無理を云つちやいけないわ、母ちやんの方がどんなに餘計つらいことか！　子供だつて母ちやんと一緒と苦勞するのね、人生はねえ……」

そして私は、センチメンタルな自分を叱りつゝ、だから——だから——私はみいちやんの分も二人分の鬪ひをたゝかつてゆくんだ。こんな世の中つてあるものか、と、口惜しく淚にこみ上げて來るのである。

長詩

松井須磨子

〔第五回〕

高群逸枝

五十五

ノラ以來
感激と
憎惡の波が
彼女を
取り巻き
嫉妬も
また
それに
續いた
彼女の
素顏の
醜いこと
頭腦に
缺陷の
あること
女工で
淫賣ですら
あつたこと
あること
無いこと
とりまぜて
嘲り
のゝしる
だが
時代は
進みつゝあつた
恰も
平塚らいてうが
光の如く
出現した時代
おゝ
明治四十四年よ

五十六

「誰だつて

あたしを
おこらして
見るがいゝ

ひどいめに
あはして
やるから」

けふも
大きな
聲で
叫んでゐる

その女を
なだめて
連れて行く

うしろでは
どつと
囃す聲

「何だか
嵐でも
きさうだね
ひどく蒸す」

といつて
窓をあける人

それを
いやな
目で
見てゐる彼女
坐れ
といつても
坐らず

頬を
ふくらませてゐる

「坐りなさい
さあ
そこへ」

ふたゝび
促がされて

「でも
わたくし
いやです

みんなが
わらひます

だのに
なぜ
先生は」
と
あまりの
腹立たしさに
言葉が
つかへる

五十七

そとでは
みんなの
歸つて行く
けはい

日は
あまく
落ち

夕告鳥の
鳴く

時刻だ
だのに
彼女は
まだ
坐らない

突つ立つて
先生の
あたまを
上から
見てゐる
「そんなにも」
と吃つて
「君は
いやなのか
坐ることが

彼等は
君を
えらく
おこらせたものだ

だが
いゝから
お話し

どんなことを
彼等は
いふのだね
君に」
「それは
つまらない
いやな
ことですわ」

といつて
あとは
いはない

どんなに
いはせようとしても
いはない

次の部屋で
何か
小さな
音がする
けふは
博士は
留守
たぶん
女中か
それとも
猫?

胸の中で
こんなことを
思つてゐる彼女

さうした彼女を
光のある
目で
眺めて
静かに
しかし
強く
「君は
ああいふ

噂が
君と
わしに
關する
ああいふ
噂が

——わしは
何もかも
知つてゐるのだ——

そんなに
いやなのか
それは
なぜか？

いまわしは
こゝで
ぜひとも
聞きたいのだ
その答へを」

彼女は
おどろいて
坐る

何といふ
意外な
ことだらう

そとは
もうすつかり
暗い

急に
さつと
強い風が
吹き入る

「さあ
返事を
おし」

吹き入る
風
それよりも
強い
聲

おゝ
彼女は
赤くなつて
うつむく

五十八

灯りの
ない
暗い部屋

だが
ふたりの心は
熱つく
燃えてゐた

もはや
完全な
男と
女だつた

一秒
たつた
一秒

それが
全(すべ)てであつた

火のやうな
聲
摑み合ふ
手

やたらに
可笑しいが
なぜだか
わからない

まつくらな
壁の中で

ふたりが
した
キス

のつかつた

膝

さぐりあてた
足

不可思議な
呻き聲や
肉の
うわごと

そして
ふたりは
感じたのである

「おお戀
心臓の
あまい
顫えの戀

戀は
歡喜の永遠の火
愛の純なる
願ひの熱

いまぞ
すべての
價値なきものは

雲のごとく
消えうせて

遙けき
彼方には
戀の花なる
不死の星ぞ輝やかん」



愚な假面

榎本八十子

良人に捨てられたとなると、とわ子はなかなか、じつとしてはゐられない。永いこと、喧嘩しいしい乍らも、男といふものに頼つてゐられた身は、どうやら食ふことに困りはしなかつたから。そこで、とわ子は、自分にも思ひがけない程、簡易な、體裁のいい仕事を思ひついた。それには都合の好い知り合ひといふことからまづ、嘘のつき初めとして、ふだんは餘り暮し向きなどでは深く知り合はない或る藥劑師のところへ出かけていつて、今度、自分の關係してゐるある慈善團體で、行商をすることになつたから適當の、傷藥を提供して貰ひ度いと申込んだ。とわ子が女學校出で、美貌で、會社員だつた良人が外に女を作つて別れたといふことだけで、藥劑師はすぐに快く引き受けて呉れた。

二日許り間を置いて、一寸四方廻りの蛤貝に元價五錢の純白の傷藥を詰め込んで貰つたものを五十個許り箱に入れ、ちりめんの風呂敷に恭々しく包み郊外の住宅地へととわ子は出かけて來た。日毎、夜毎に、あゝもかうもと考へてゐた文句が、果して人の家に立つて、小怜悧さうな細君達の前に、すらすらと運んでゆかれるものかしら、とわ子は流石に自分が之から大膽に踏み込んで行かうとする仕事の前に逡巡し、嫌惡に似たものを感じた。食ふに困る、たゞそれだけで、こんなことを思ひ付いたといふわけでもないらしいことが、とわ子に芽ぐんでゐたある內心の破産を思はせた。

　とわ子も、かつては空想し、望み暮してゐたこともあるところの、空氣の良い廣い丘の上の文化住宅、それを一望に見

渡される新らしい十字路を、黒ちりめんの羽織に、結城お召しの着物の裾を心持亂して、吸ひ込まれるやうに歩るいていつた。貴婦人らしい、その重々しい身裝も、かなり疲れたものだつたが、引つ詰めて襟首でぐるぐると卷いた無雜作な髪形で、白つぽつい縞物にくつきりと調和した茄子紺地の半襟の細さも、いかにも洗練された着こなしで、押し出しに少しの不足もなかつた。賣りはたくものは綺麗にはたき盡して、云はゞ一張羅の衣類が、今は大切な資本の一部分だつた。

　明るい晴々とした空の下で、彼女は仔細く四邊りを見廻し花崗石の門構に波野と標札の出た家の玄關に立つた。若いまだ結婚した許りらしい一種耀く許り美しさを持つた細君が出て來た。とわ子の唇が慄へた。

「わたくし、鎌倉の孤兒院から參りましたものでございますが、今まで財團法人でやつて居りましたのですが、今度からさういふ寄附が頂けなくなりましたので、此處にほんの僅許りのものを持つて上つたので御ざいます。御同情下さいましてお求め下さいませんでせうか」とわ子は混亂し乍らも、鮮に云つてのけた自分の辯舌に驚嘆してしまつた。

「どう云ふものなのでせうか。」若い細君はとわ子の慇懃な、物々しいある調子を籠めた哀願的口調に壓されたやうに訊き返した。とわ子はしめたと心に吻とすると、ぐんぐんつけ上つて來る空虚な感激に溺れかけ乍ら、緊張し切つてゐた硬ひ表情の和らいで行くのを感じた。

「之、ひじや、皹、霜焼けその外の切り傷などに大變效能のあるお薬で、三十錢と五十錢の二種ございますのですけど、おいくらのでも、思召しで結構でございます。」

「さう、それじや、あの三十錢の方頂いときますわ。」

「は、試に御迷惑かけまして。あの奥樣、この上御迷惑お願ひ致しまして、本當に申譯ないのですが、奥樣の御知り合ひで、恁うしたものでも御同情でお買ひ下さるお方がございましたら、一つ御紹介頂けませんでせうか。」

「さあ、あたしまだこちらに最近移りました者で、さつぱり御近處の樣子を知らないんですけど、此先きの一軒置いて向ふの川崎さんてお家、彼處へいらしつて御覧なさいませ。」

「まあありがたふございました。本當に馴れませんもので、どちらへ伺つてよいものやら、さつぱり解りませんで困つて了ひましたの。」

　親しい調子が解れて來た機會を逃さず、とわ子はさつさと

その家を出た。何となく、赤い舌でもぺろつと出し度いやうな快感の後に、扨また、何と云ふ純情な、意識の跪い細君だらうと思ふと、感謝の先きに、ふんと鼻つ面の笑ひが込み上げて來た。あゝ云ふ細君許りに打つかつて行つたら、この元價二圓五十錢の品物が、おゝ何と、十五圓、或はそれ以上になるかも知れない。眞實しやかに、慈善の傘を借りたことをとわ子は今はもう反省もなく、慘忍な氣持で心一杯愉快に充ちた足どりで、示された川崎氏の門を入つたのだつた。

「まあ、波野さんの御知り合ひで、左樣でございますか。只今、若い者はみな出拂つて居りませんですが、それでは私とこでもお一つ。」

　品の好い老婆は、とわ子の姿を見上げ見下ろし乍らも雑作なく買ひ上げて呉れた。

「なかなか、遠方から出てらしつてから云ふお仕事をなさるのは大變でございますねえ。」

「はあ、之も社會奉仕の一つだと存じましてね、でもお蔭樣で皆樣が御同情下さいますものですから、どの位助かるか知れません。」

　とわ子はもう、此老婆には紹介を頼まなかつた。それ以上は危險でもあるし、少し方向も變へなければならないからだつた。

　丘を一つ越すと、又一區劃小ブル階級らしい住宅の立ち並んだ家を、こつこつと荒して行かふ、郊外に住む程の細君達の經濟觀念の强いことはよく解つてゐたが、彼女等のプライドに附け入つてゆく煽動的手腕さへ確なら、なあに之しきのこと——とわ子は兎に角愉快だつた。

　中には、さうして美しいとわ子が、虚榮も外聞もなく仕事に就いたいふことに感激以上の者を示して、孤兒院の内部の樣子や、とわ子の身の上などを克明に根掘葉掘り訊く人もあつた。とわ子はそれを、出駄羅目に、巧妙に、實に際どいところで切り抜けて、次から次へと押していつた。嘘といふものが、之程、正しいものとして受け入れられるなんて、どうしたものだと、彼女は流石に冷めたいものを心に感じたが、さう思ふ瞬間にさへ、易しと見たら、三十錢に賣りつけたものを、倍にもして貪り盡してやらうといふ慾念に煽られていつた。とわ子は、さうして二十軒の家を、美しく、しとやかに襲つた。ぼろも露見さず、何と凄さまじい腕前であることよと、とわ子は自嘲的に昂奮しながら、まづその日は引き上

げることにした。そろそろ彼女達の良人が勤め先から戻つて來る頃だからだ。そして、誰もが一様に、とわ子の犠牲的な行爲を讃美するか、或は、面と向つて成し得なかつた侮蔑を、大つぴらに投げつけて笑ひものにするか、どちらにしても、彼女達の單調をちよつと引つ掻いたゞけでも興味は充分だつたらう。が、中には、後で、はつと氣がついて苦い思ひを味はせられた賢明な者は、良人にそんなことを話すのを怖れて、密に後悔してゐるものもあるだらう。とわ子は又してもちくりと刺されるものを、まだ心の何處かに持つてゐた。

　ささやかな煎餅屋を婆さんが出して、爺さんは、玉川電車の掃除人夫に勤めてゐるといふ老人夫婦の家の二階に戻つて來たとわ子は、今日一日中、嘘、嘘で塗り潰して來た疲れを一時に覺えてぐつたりして了つた。變な心の動搖から、計畫的に、それも深い顧慮もなく初めた淺果さが、自づと頭を擡ち上げて來ることが苦るしかつた。

　下の婆さんが勸めるやうに、すぐに結婚しやうと云ふ氣もないが、給仕女や踊り子になることの外に、出來るだけ貴婦人らしく裝つてゐたいことが彼女の願望なのだ。別れた良人に對しても、日頃輕蔑してゐた種類の者へ成り下ることは、とわ子にとつて苦痛の外はない。

　翌日も、彼女は澁谷のその家を出て、世田ケ谷方面へとやつて來た。珍らしく、五十日間も雨を受けない樹々の葉は、白つぽく埃りに染められ、乾き切つた土はそつと踏んでも、ぱつぱつと舞ひ上つた。今日は殘りの三十個を完全に賣り盡して、一と思案しなければ、身の破滅であることを、明に知つたのだつた。一時の興味や手段で、一生を變なものにするでもないことは最初から彼女の心にあつたに關はらず、ずるずると、粘り強く陷ちてゆく自分を見返り乍ら、とわ子は昨日と違つた憂鬱が心の中を去らなかつた。そして、まだ新築したての洋館作りの一軒の家へ入つて行つた。その家に相應しくない、薄汚れたエプロンを掛けた女が出て來た。

「奥樣でゐらつしやいますか。」とわ子は丁寧に訊いた。

「はあ。」エプロンを外し乍ら彼女はきちんと玄關に坐つた。

「わたくし、あの、此向ふのお家から御紹介願つて參つたものですが……。」

「あの、誰方樣でせうか。」

「○○さんて仰つしやる軍人さんでございますが。」

「○○さん？」細君が訊き返したと同時に、とわ子は、あつ

と思つた。何といふ、何といふ不覺さ、〇〇の名が、今朝號外にまで出たあの恐ろしい說教强盜であつたとは、家を出る時から、婆さんと、口を極めて罵り嘲笑つて來た彼の名を、不用意に口にした彼女は體中が熱くなつて棒のやうに突立つた自分の狼狽さを、細君は平然として再び訊き返した。

「〇〇さんて云ふ軍人さん、私、一向存じ上げませんけど、その方とはお親しくて？」

「はあ、奥樣とは學校友人でございまして、昨晩はその方のお家へ泊めて頂きましたのですよ、何しろ此邊の樣子を一向存じませんので、御紹介から御紹介を頂きましてね、なかなか、わたくし共の仕事は理解して頂き難いので、かうして知識階級の方許りに御迷惑を願つて居りますの。」

「でも、それはいけませんわ、それに、さういふ、お藥といふものは、大抵のお家には備へてありますから、此邊、農家の多いところなんですから、それこそ飴だとか、鉛筆のやうなものお持になつた方がようございませう、知識階級許りを目當てとなさらなくつたつて、返つて農家の方に眞の同情は多ふございますよ。」細君は吐き出すやうな口調だつた。

「わたくし共、お藥は入用ございませんから、寄附として、三十錢だけ差し上げますけど、鎌倉の方から御出張でしては隨分大きくやつてゐらつしやるのでせうね。」

「只今七十人程居りますけど、とても驚く程費用が掛りましてね、お恥かしいお話ですけど、みんな育つ盛りの子供許りですから、御飯を頂くこととつたら、實際可憐らしくて、自分のことも忘れてこんな仕事に就きまして。」

「それならば尙、範圍を廣くお取りにならなくてはいけませんわ、階級とか何とか仰つしやらなくつも、貴女のお話伺へば、變な證明書なんか、お見せにならなくつたつて充分御同情しますよ。」細君の言葉が又、とわ子の胸にぴんと來た。今まで、何處でも、證明書の提示を迫られたこともなし、名前さへ名乘らずすり拔けて來たものだつたのに。いい加減に假面を脫いで了へと云はれてゐるやうに、何もかも見透されてしまつてゐるやうなしどろもどろさが、とわ子に恥と悔ひとを感じさせた。藥は入用らないと云ふのを無理に押しつけて、とわ子は匆々にその細君から逃れた。虎口を逃れた思ひだつた、が、彼女は、あゝして一つの見識を持つて、一家の主婦になつてゐられる人達が何となく重々しく賴もしく心に蘇返つて來るのだつた。

　自動車の捲き上げてゆく凄まじい砂塵の中を、とわ子は目も耳も、心一切を被ひ隱し度い氣持で步るいていつた。

昭和四・三・八

ゴーリキイの「母」を讀む

池田みは子

二月中旬のある日、友達の一人が、丁度その時立寄つた私に、ゴーリキイの「母」を貸してくれた。その歸途、省線の中でのひろい讀みに、私は初めてこの「母」を知つたのである。家から勤め先へ、勤め先から夜學へ往き來の、省線電車内にある私の唯一の讀書時間が、それからは毎日「母」のために費された。凡そ十五日ばかりもかゝつたであらうか。その間私は一日々々それを持たずに電車に乘る事が無かつた程、この本に心を掴まれてゐたのであつた。ラッシュアワーの激しい人混みの中で押し潰され乍ら、三頁か、せいぜい四頁しか、一度に讀む事は出來ないのではあつたが、たゞそれだけが、私に一日中の力を與へ、私の胸を火で燃やし、時には私の心を、激しい焦立たしさの中にさへ追ひやるのであつた。

無智な勞働者の妻であり、たゞ一人の息子の母であつたに過ぎない彼女が、やがて無産者解放運動の第一線に立ち、勞働者たちの最も敬すべき同志として、母として、眞理のために死に赴く迄のこの物語は、私の心を底の底から搖り動かさずには置かなかつた。

作者は平易で物靜かな、たとへば、眼に一丁字もない者に聞かせても解るやうな言葉で物語を進めてゆき乍ら、何人の胸にもさゝり込まずには置かない樣な、鋭さと、力强さとを常に底に貯へてゐる。彼の文章のうまさがその底にある或ものを、誰の胸にでもネヂ釘のやうにさしこむのだ。

私達は、チエホフの「櫻の園」に於て、封建制度の崩壞と資本主義の擡頭とを見た。其處にある貴族のラーネフスカヤ夫人は、人の良い情にもろい、何處までも知の世界を求めやうとしない、弱い一人の女性であつた。彼女は動きつゝある社會の姿を見やうとせずに、何處までも過去の夢に醉ひ、自分の熱情に甘えてゐた。必然的な社會變革の前に、彼女はもろくも打ち敗かされて新らしい社會に對して生きてゆく適應性を全く失つて了つた。チエホフの「櫻の園」は滅びゆく階級への哀悼の歌であつた。

次に私達は、トルストイの「復活」に於て、虐げられたカチユーシヤといふ一人の女性を通して、ブルジョア階級に内在する樣々な惡を見せられた。同時に今日ではすでに反動的となつてゐる、精神革命の勝利を見た。

今、私達は、ゴーリキイの「母」に於て嘗ては無智と暗黒の、ものうい世界にうめいてゐる一人の母ニロウナに接する。そして彼女が如何にその子に對する愛を通して無産階級の解放のために働いたかを見る。尚私達はこの作品の中に、知識と眞理と、希望と光とに、飢えてゐる母をとり卷く、幾人もの純情な勞働者を見る。母及び彼等が、絶え間なく與へられる暴壓の下に於て如何に强く同志を愛したか、如何に眞面目に全無産階級の解放のために戰つてゐるかを見る。

この作品はゴーリキイによつて、今から二十年前に書かれた、いさゝかロマンチツ

クな分子を含んでゐるものであるとはいへ凡ての社會情勢が、甚しく遅れてゐる現代の日本に於ては、まだ〳〵十二分の新らしさをもつて迎えられなければなるまい。

今や全日本の無産者たちは、殊に無産婦人たちは、眞實を知るためのあらゆる機會から覆はれてゐる。社會が彼女を盲目にし家庭が彼女を犠者にする。而も經濟上の苦しみは益々重くその肩にのしかゝつて來る。

全無産婦人は、何時如何にして解放されなければならぬか。現代の婦人は、只單に家庭にあつて、各々の城廓をのみ美しくきづき上げる事に專心である事は出來ない。寸時も動いて止まない社會の必然的な流れを、私達はどう見るか。此社會、此時代に於て私達無産婦人は如何に生きるべきであるか。本當の意味に於ける現代婦人としての自覺とは果して何であるか。

ゴーリキイの「母」はこれ等の、必要缺くべからざる當面の問題に、力強い解答を與へ、私達無産婦人の歩むべき光ある道を指示する。

私達が「人形の家」に喜ぶ時代は遠く過ぎ去つた。私達はもつと階級的な立場から一ケの明らかな無産婦人としての自覺を持たなければならない。

この意味に於て、私は、ゴーリキイの「母」を見出した事を、非常にうれしく思ふと同時に、これを、同胞であり、同性であり、同志であるべき全無産婦人に、一人殘らず讀んで戴きたく思ふのである。

（四年四月六日）

今度マルクス書房から出版された「母」の邦譯が果然讀書界の注目をあつめました。ちやうど五月一日のメーデーにあたり、この中に出て來るパニロウナの様に雄々しくも慈愛深き階級的鬪志を、私たちは自分の母性に植えつけてゆきたいと思ひます。

讀んだあとの感想を書き送つて下さい。論文でも、小説でも、感想文でも、卒直な讀後感を募ります。忙しく暮してゐる皆さんのために讀み物をセンタクする時の參考にもなり、暗示も與へられていゝだろうと思ひます。

毎日の生活について、特に女として實感が隨分いろ〳〵におありだろうと思ひますが、「婦人運動」誌上にのせさせて下さい。何と云つても、ありのまゝの實感位人の心を打つものはありません。

俗世間的の興味や野心の蔭にかくれて質實に愼ましく生きてゐる世の多くの婦人達の爲に、いゝ代辯者として本誌を役立たせたいと、私はいつもそれを希つてゐます。

お集りなどなさるとき。精々婦人運動や會報を利用して下さい。毎月餘分に刷つてゐますからお申込次第實費で送ります。會合のあとの御報告もぜひ書いて送つて下さい。寫眞があつたらそれも添へて。

會報でお知らせしてある様に職業婦人協會が組織を改めて、これから大いに積極的に働いてゆかうとしてゐます東京全體の職業婦人數から云へば未だほんとうに少ないのですから、この際會員を殖やしてき大な團體にしやうとみんな手を分けて勸誘してゐます。未だ加盟してゐらつしやらない人々は今すぐに申込んで下さい

戯曲

巡禮

シユービン作
原田健生譯

登場人物

巡禮（或は放浪者）
シニオラ――或る富豪の未亡人
アルベルト――シニオラの息子
ジユジエプペ――年寄りの農夫
アダー――ジユジエプペの娘
勞働者　一名
水夫　一名
音樂隊（但し舞臺裏にて）

十九世紀の　、春、北部伊太利の海岸、傾斜した新綠の岡が見える。舞臺の中程に、さゝやかな垣根があり、その奥には一面花毛氈を敷いた様な野原が展開し、遠方に青々とした海面が見える。垣には小門がある。

心持ちのよい朝。太陽は上手にある如何にも陰鬱らしい富豪の家を蔭にして、垣根の左隅の見すぼらしい農夫の小屋を照してゐる。

幕が開かれると、舞臺は全く靜粛で、唯だ遠くの方で鳴つてゐる鐘の音が、その靜粛を破つて居るのみ。そのうちに、音樂隊はメーデーの歌を奏し始める。始めは、その歌の文句さへはつきりと聞えないが、直ぐに聽きとれる様になる。それから、多勢の歌聲が愈々騷々しくな

つて行列の近づいた事がはつきりしてくる。最後に歌聲は又だんだん靜かになつて、行列が遠ざかつて行く。

第一場

メーデーの歌聲がうすれて行くと、垣根の外側に一人のうら若い百姓娘が現はれ、小門を開いて這入る。この娘がアダーである。その顏は少し淺黑く、如何にも活々して居り、その眼は美しく輝き、荒い氣息遣ひはたつた今大急で走つて來たやうな感じを與へる。手には綺麗な花束を抱へて居る。

アダー　なんとまあ今日はいゝお天氣でせう！　何處を見ても、この春祭りをお祝ひしてゐる樣だわ！　野原も、海も空も、……（富豪の家の入口の方を見て）アルベルトさんもう御目覺めだらう、あの方はきつとお母さんと散歩にお出掛けになつたに違ひない。（花束を見ながら）この花束を玄關に置いて行かう。あの方はきつとこれをお見付けになる。さうすればこの花束はあの方に、今日がどんなに大切な日であるか話して呉れるでせう！　（階段に花束を置き、それから足音のする方へ耳を傾け）あら！　アルベルトさんらしい、見付かると大變……（百姓家の中に隱れる）

第二場

舞臺の下手に、アルベルトと彼の母とが現れる。アルベルトは、青白い、淋しい顏をした、背の高い、溫和らしい青年で、老母のシニオラを介抱しながら靜に歩いて居る。

アルベルト　お母さん！　僕は散歩でもしたらきつと氣晴しになるだらうと思つてましたが、かへつて氣がふさいで來ました。

シニオラ　おまへはきつと、あの亂暴な百姓共の歌を聞いて不愉快になつたのだらう。

アルベルト　いゝえお母さん！　百姓共の歌は平氣ですが、なんとなく淋しいのです。

シニオラ　アルベルト！　だけどこの間まではお前も樂しさうだつたぢやないか？　（シニオラとアルベルトとは自宅の近くにあるベンチに腰を下す。）

アルベルト　お母さん！　僕は病氣らしいんです。

シニオラ　（不安さうにアルベルトを眺めて）そんなことは言はないでおくれ……そんなことは……

アルベルト　心配は入要ませんよ、お母さん！　身體は丈夫なんです、唯だ氣持が勝れない丈なんですから。

シニオラ　あゝ、つくづく厭な世の中だ。今迄に私はこんな嫌な思ひをしたことはありやしない。近頃の人達は、みんな心が腐つてゐるんだよ。

アルベルト　世の中がどうしたと云ふんです？　お母さん！　世の中がどんなに惡くなつたつて、そんことはどうでもいいじやありませんか、吾々は生れて、死んで行く丈けのことなんです。

シニオラ、……お前は、まあ如何してそんな考へになつてしまつたのかい？

アルベルト　（胸に手をやつて）僕には此處がつまらなくなつたんです。だから無暗に寂しいんです。

シニオラ　そんならおまへは、何か不滿なことでもあるのかい？……おまへは未だ若いし、その上金はあるし、何も不足はない筈ぢやないか？

アルベルト　（苦しさうに）若い、金がある……（物思ひに沈んだ調子で）さうです、僕は金持です。……然し僕の心は何時も、何物かに飢えてゐるんです。

シニオラ　併し、よく今迄のことを考へて見なさい……昔はお前も、玩具の小刀を持つて、あの梯子段を大きな聲を出して馳けずり廻つたこともあるぢやないか。それに、この家も、あの野原も、丘も、葡萄畑もみんなおまへのものぢやないか。

アルベルト　（微笑しながら）僕のものですつて？……それは又、如何いふわけです？

シニオラ　何故そんなことを言ふんです？　それはみんなお父さんがお前に遺した財産ぢやありませんか。

アルルペト　そりや知つてます、然しお父さんも僕も、一度だつて「吾々」の畑で働いたことがありますか？

シニオラ　何を言ふんです！　私達は、未だ畑を自分で耕さなければならない程おちぶれてはゐませんよ。ちやんと百姓が居るぢやありませんか。

アルベルト　そんならお母さん！　畑は百姓のものでせう？

シニオラ　ああ……、おまへは眞實に氣でも狂つたんだね？

アルベルト　お母さん！　あなたは僕の言葉に驚いて僕を病氣だとお考へなんですか？……（急にベンチから立ち上つて）然し、僕は丈夫です。……お母さん！　あの岡にある青々した立派な葡萄畑を御覧なさい。あの立派に灌漑の出來てゐる畑を御覧なさい。御處にはもう種子が播いてあるんです。……一體あれは誰が作つたんでせう？

シニオラ　（少し腹立ち氣味になつて）何故そんなことを聽くんです！　さつきも言つた通り百姓ですよ。

アルベルト　だが吾々は……吾々は一體何をしたんです？

シニオラ　私達が何を爲なければならないと云ふのかい？　私達は主人ですよ！

アルベルト　（少し身襞ひしながら）それは違います。吾々は主人ぢやありません、唯だのノラクラモノです。

シニオラ　（兩手をあげて）オー神樣！　私の子供をお救ひ下さい、私の子供は呪はれて居ります……（それからアルベルトに向かつて、前より優しく）さあ！　お前の部屋に歸らう！　彼處に行つて、幼い時のことでも思ひ出したら氣も靜まるだらう……（子供を丁寧に家の方へ連れて行く）

アルベルト　（アダーが梯子段に置いて行つた花束を見付けて）おや！　僕にもメーデーの贈物をした者がある。お母さん！　これはあなたの贈物ぢやありませんか！

シニオラ　（驚いて）いゝえ……妾ぢやないよ。

アルベルト　（花束に接吻して、それから百姓家の方へ優しい目をやりながら）さうだ、さうだ、今日自宅の玄關に、最初の花束を置いて行つたのは意味のあることだ！……

（丁度その　、百姓家から突然アダーの顏がちらつと見える）

シニオラ　（靜かに子供を家の中に誘つて）さ、這入りませう！　さあ！

（アルベルトとシニオラ家の中へ這入る）

第三場

アダー　（玄關の方へ近寄りアルベルトの背後から接吻を送りながら）戀しいアルベルトさん、妾のつまらない花束がそれ程あなたに喜んで戴けるなんて……でも、あなたの眼は何時もそんなに哀しさうなんです？　何故あなたは草や木と一緒に、この五月を――この春をそしてあの太陽を祝

踊出來ないのです？（靜かに考へ込む）

第四場

垣根の隅に下手から巡禮が現れる。彼は垢の付いた粗末な旅着を著て、背には袋を負ひ、手には杖を持つてゐる。その男らしい顔には幾何か疲勞が見られる。彼は遠くから來たらしいが、未だ旅は終らないらしい。アダーを見つけて、彼は立ち停つてゐる。）

巡禮　娘さん！　水を頂きたいのですが？　（立ち止りながら）昨日から一滴も飲まないので、すつかり咽喉が渇いて歩けさうもないんです。

アダー　お待ちなさい……（走つて家に歸り、水差を持つて來て）さ、どうぞ。

巡禮　（吸ひ取る樣に飲み了つて）どうもありがたう。

アダー　（不思議さうに巡禮の顔を眺めて）小父さん、あなたは誰樣です？

巡禮　誰れだつて？　私の名前なぞお前さんに必要はないだらう、それに、私には名前なんぞないんだ。私はよその者さ。娘さん私はこれから又遠くへ行くんだ。

アダー　（小門を開きながら）御ゆつくりお休になつたら？……どうぞこちらへ御這入り下さい。あゝ、もしお腹でも空いておいででしたらパンでもお上りになりませんか？

巡禮　（這入りながら）有難う、腹は空いてませんが、少し休ませてもらひます……（縁側に座つて、袋を下し、それを自分の膝の上にのせる）

アダー　御疲れでせうねえ？

巡禮　えゝ、少しばかり……

アダー　これから何處へいらつしやるんです？

巡禮　東の方へ行きます、太陽の昇る方へ……（アダーと話してゐるのも氣が付かないやうに）私はもう、幾度か海や河を渡り、暗い林を通つた。私は幾度か、山や岡を攀ちた。荊棘の中で着物や身體をひつかいた。夏の炎熱は、私の顔を黒燒げにした。冬の寒冷は私は凍死させるところだつた。だが私は、私の目指す國へ進んで行かなくてはならないのだ。

アダー　何時あなたは其處にお着きになるのです？

巡禮　いや、まだまだ幾何だけ歩かなくてはならないかわか

らない。私は又海を渡り、高い山を越さなくてはならないだらう。幾何の春や秋を迎へ様と、私は太陽の出る國を見るまでは何までも歩いて居るだらう。

アダー　其處は如何な處でせう？……（間を置いて）あなたの目指してゐる國のことを、妾に聞かせて下さい。

巡禮　（恰も空想家が何か思ひに沈んで居るやうに）オヽ！　それは實に美しい、この上もなく美しい國だ。

アダー　（巡禮に魅惑されたやうに）妾にその國のことを話して下さい……（彼の傍に座る）

巡禮　（夢想から覺めた様に）私の國、いや國と云ふよりも團體と云ふ方がいゝ。其處には憎惡も嫉妬もない。其處は勞働が天下を取つてゐる。その國では、愛がすべての羈絆となり、自由と幸福とが最高の法律なのだ。そして凡ての人々が、一様に自然の恩惠を蒙つてゐる貧乏人は一人だつて居ない。科學も藝術も隆盛なのだ。法律が立派だから、從つて平等だ。徒食者などは、全く見られない。平和を破る戰爭もない。女も男と同權だ。母はいつも幸福で、子供等には勞働と、隣人に對する愛とが敎へられる。靑年と大人とは、共に生活の意義を意識して働いてゐる。……（急に大聲で）行かう？　私と一緒に行かう！　太陽の昇る國へ。

アダー　（夢から覺めたやうに）巡禮さん！　妾はあなたの國を知つて居ります。其の國なら妾は、幾度も夢想したことがあります。

巡禮　何ですつて、あなたは私の國を夢想したことがあるつて？

アダー　（溜息を吐きながら）さうです、それは全くの夢に過ぎなかつたのです。

巡禮　オヽ！　それは間違ひだ。娘さん！　それは夢ぢやない。現實だ、現實なのだ（小さい聲で）……唯だ其處に到達することが、なかなか困難だと云ふ丈けなんだ。

アダー　巡禮さん！　妾、あなたと一緒に行けたら、如何なに嬉しいでせう！……

巡禮　だが、あなたには戀人があるだらう？

アダー　（俯向いて）それも亦夢なんです。

巡禮　いや、眞實に思つてゐる男があるだらう！

アダー　（俯向いたまゝ）えゝ。

巡禮　その愛に引かされることはないか？

アダー　（傲然として）そんなことはありません。

巡禮　その外に、何かあなたの欲しいものがあるだらう？

アダー　（恍惚として）それは自由です。

巡禮　（アダーの耳に私語く樣に）そんなら……その男が若し旅立つのが嫌だつたら……私と行かう！

アダー　（握手を求めつゝ）行きませう！　だけどあの男も一緒に……

第五場

小門のところから一人の勞働者

勞働者　今日は、アダーさん！

アダー　今日は、ドヂヤネツトさん！　（驚いて）如何してあなたは五月一日と云ふのに働きに行くのです？

勞働者　仕方がないですよ！　主人が今日休んだ者はみんな解雇するんだつて嚇すんだもの……

巡禮　（傍から口を入れて）主人が君を束縛つたんだつて？

勞働者　それが何か變だと云ふのかい？　主人が如何？

巡禮　君は人間だらうね？

勞働者　（小閉に入り、微笑しながら）勿論人間さ、皮もあ

れば血も筋肉もある……

　この話の眞最中に、アダーは小門から出て突然蔭れてしまふ。

巡禮　さう、君は人間だらう！　だが如何して人間が主人を持つんだ？

勞働者　人間が、なんにもなく、貧乏になつたときさ……

巡禮　君は亦如何して貧乏になつたんだ？　そのために君は何をして居るのだ？

勞働者　俺は朝早くから、晩おそくまで働かなけりやならないんだ。俺には休憩とか息抜きとか云ふものはないんだ。俺が疲れると、監督の目が光る。若し反抗でもしたら賃銀を減されるか、その上罰を喰ふかだ。

巡禮　それぢや、君の主人は、その富は誰の御蔭だか知つてるだらう！

勞働者　何んですつて？　主人は俺や俺達が作るものを、みいんな攫ふんだ。

巡禮　何故君等は、平氣でそんなことをさせるんだ？

勞働者　仕方がないんです。奴は「資本と機械が俺のものなら、工場で作つたものはみんな俺のものだ」と言つてるん

です。

巡禮　(勞働者に近寄り) 君は實に勤勉な若者だ。ところで君は、私の忠告を聞いて呉れるだらうね！

勞働者　えゝ、聞きませう……

巡禮　一年に一度でいゝから、君の主人に勞働——勞働のみが凡てのものの生産者だと云ふことを示してやつたらどうだ？

勞働者　併し、それには如何したらいゝんです？

巡禮　富が主人に何を齎らすか、機械を運轉しないで眺めてゐるんだ。然し君達勞働者も「將來のある」貧乏人になるんだ。

勞働者　(考へながら) よく解りました。さうです、機械は獨りで生産しませんからねえ！……

巡禮　(最後のとゞめを刺す樣に) 富はみんないゝ勞働者の兩腕の御蔭なんだ。

アダー　(再び現れ、野原の方を向いて叫ぶ) あゝ！　水夫さん、あなたは何處へ行くんです？

(水夫の聲が遠くからきこころえる——働きに行くんだ)

アダー　(聲高に) 行かないでもいゝから妾の云ふことを聞いて下さい！

(聲がだんだん泣くにきこえて來る。——今大急ぎで行きますよ。娘さん！)

アダー　何に、別に心配することぢやないんです、妾は唯だあなたに、今日は働かねいでもいゝと云ふことを御報らせした丈けなのです。

(聲はもう直ぐ隣りで——何故です？)

アダー　あなたはもう忘れたのでせう？　今日は五月一日ぢやありませんか？

第六場

勞働服を着た水夫現る。

水夫　なんだつて？

アダー　何んでもないのです、妾唯だあなたに野原からさつきまで聞えてゐた歌を、聽かなかつたかどうかを、お尋ねしたい丈けなのです。

水夫　あれは五月の歌ぢやないか……

アダー　それを承知してゐて、何故あなたは働きにいらつし

やるんです？

水夫　何故かつて？……それや、主人が吾々の船は、今日が如何な日であらうと決して休んではならないと云つたからさ。

アダー　（命令でもする樣に）あなたは行かないでもいゝんです！

水夫　勿論俺が主人だつたらね。

アダー　あなたは全くの奴隷です、あなたは、あなたを縛つてゐる鎖に、キッスして居るやうなものです。

水夫　何を云ふんだ。

アダー　（心持顔を上げて）巡禮の方も水夫の方も、勞働者の方も何卒聽いて下さい。妾は高のしれた女です。ですからこのお話も或は、つまらないかも知れません。でも今日妾は自分でも解らない不思議な聲が聞えて來るんです。さうしてその中には陰氣な炭坑の中に埋められた炭坑夫の喚聲機械に壓し潰された勞働者の叫び聲、凍えた子供や年寄り戰場で負傷した兵士、牢獄にぶち込まれた人々の啜り泣き等が、ゐるやうな氣がします。（何か聽いてる樣に）嬉びの聲が聞えます、全世界の勞働者がお互ひに打ちとけて樂しんでゐる……又、五月の草花と共に咲き出した希望の私語、人間の解放を防害する仇敵の、武器のきしめく音が交々に聞えます。さうして妾は、今日の集合に來ないものは、謀反者であり、卑怯者であることを知つてゐます……

（巡禮、水夫、勞働者、アダーの言葉を聞いてゐたが、だんだん彼女に魅惑されて行く）

巡禮　（アダーの方へ近寄り堅く彼女の兩手を握つて）娘さんあなたは、私がこれから行かうとしてゐる幸福な國にふさはしい人間だ。

アダー　（夢でも見て居るやうに）妾の夢見てゐた國……

巡禮　（厳かに）それは太陽の昇る國。

水夫　（決然として）今日は休まふ、あいつを嚇かしてやらう、どうだ君達はそれに賛成しないか！

勞働者　俺も決心した。工場も今日は閉塞されるにちがひない。

アダー　あなた方が今日休んだつて、主人が何が言へるものですか？

水夫　（輕蔑するやうに）併し、俺のところの主人は……彼奴は何時も船に來るからね。

勞働者　俺のところだつて……俺のところの主人は何時も兩手をかくしに突込んで機械のところに來るから……奴に何んて言つてやらう？

アダー　（微笑して）地主だつてさうですわ、ですけど、あの人達に一言だつて言はせるものですか。

巡禮　君等は何故不斷の勞働と、貧乏に甘んじて居るんだ？　何故私の國――平等の、平和の國に來ないんだ？

勞働者　併し、俺には腕があるからね。

巡禮　だが、おまへらの國では勞働が生活を保證して呉れるか！　おまへ等は金持か？……

水夫　然しその國では、俺のやうなものでも入れて呉れるかしら？……

巡禮　（優しく）そりや心配ないよ！　其處は、世界の凡ての人々の故郷であり、其處には勞働者等の一大家族もあるのだ。

勞働者　（決然として）握手しませう、俺は工場に行つて仲間の奴等にも、その國の話をして來やう！

水夫　俺も……奴等に五月一日を祝はせる必要がある。

巡禮　（アダーの方を見て）併し、娘さん！　あなたも行きますか？

アダー　（贊成の意を表するために握手を求めて）無論參ります。……

第七場

アダーを殘してみんな退場、家の中からアルベルトが顏を出して、ヨロヨロ玄關を下りて來る。

アルベルト　この家はどうも陰氣臭い。全く魔でもさしたやうだ。……（アダーを見付けて、急に晴々しくなり）ア、貴女だ、貴女だ！　（彼女に近寄り）花束を呉れたのはあなただつたのだ。きつとさうだ、きつとさうなんだ！

アダー　（やさしく彼の頭髮をなでながら）如何して今日はそんな寂しさうな顏をしていらつしやるんです？

アルベルト　（臆病に）僕は恐いんです。アダーさん、僕の家は、冷たいんです、冷たすぎるんです。

アダー　あなたのお家がですか？

アルベルト　貴女は僕の家が、如何なに陰氣臭いか御存じでない！　この家は、子供の時から、なんだか恐ろしいと思

つてゐましたが、……今、又昔の事を思ひ出したんです。

アダー　（彼の恐怖した顔を見て）氣を落ち着けて下さい、御覽なさい、あの太陽、――柔しい太陽を、四方のものはみんな歌つてゐます。さうして妾は此處に、貴方のお傍に…

アルベルト　（上氣して）オ、さうだ、貴方の傍に……貴女の傍に。僕は休んでゐる。そして僕は、貴女の傍に、春の温味を、心ゆくまで味はつてゐる。けれどもあの家では……いやだ、いやなことだ、僕は彼處に歸りたくない。（一層アダーに近寄る）

アダー　でも、彼處には、貴方のお母樣がゐらつしるぢやありませんか、お母樣は、貴方を可愛がつておいでです。

アルベルト　僕の母？……（ひどく落膽したやうに）……さうです、母は僕を可愛がつてゐます。

アダー　それで、何があなたは不平なのでせう？　貴方はお若くて、お綺麗で、その上お金があるぢやありませんか？

アルベルト　僕の財産は、僕を墮落させる……さうかと云つて、僕は赤貧には甘んじられない。（アダーを自分の方へ引き寄せて）何故あなたは僕が幸福に見えるのです？　あなたは、僕がまるで病人のやうには見えませんか？

アダー　そんなこと……あなたは強い、立派なお方です……

アルベルト　（悲し氣に頭を振つて）貴女は見違へてゐる。僕は頭痛がするんです。

アダ　（優しく）私は――私の愛であなたの病氣を癒したい。

アルベルト　さうです、あなたの愛は唯一つの藥です。若しその藥で癒らなかつたら、僕はもう駄目です……（前よりも聲を低くして）どうか聞いて下さい、アダーさん！……僕は、僕の祖先が、今の財産を作るために犯して來た罪が恐しいのです。僕の祖先は、あなた方の祖先が苦しんで居られる時平氣で贅澤をしてゐました。（目覺めた時の樣に）さうして僕もその汚れた血を受け續いでゐるのです……

アダー　（一層優しく）それは貴方の迷ひですアルベルトさん！　眞實の生活にお歸りなさい、さうして眞實の生活がどんなに樂しいものか、御覽なさい。其處では、吾々勞働者の叫び、永遠の若者を祝福する、不斷の音樂が聞えます……今日は吾々勞働者が、待ちに待つた樂しい祭日なのです。貧乏な勞働者は年中働いてゐます。あの人達こそ眞實に休める權利を持つてゐるのですわ……

アルベルト　（我れに返つたやうに）さうです、彼等こそその權利を持つてゐます。

アダー　それで、あの……妾、あなたに、今日如何なことがあつたかを、お話ししたいのです……（少し躊躇してゐる）

アルベルト　何故あなたは默つてしまつたのです？

アダー　（低い聲で）今日私のところへ、太陽の昇る國へ行くんだと云ふ不思議な巡禮が立ち寄つたのですよ……

アルベルト　（驚いて）その人は太陽の昇る國へ行くんですつて？

アダー　さうなの、東の方に國があるのです、さうして其處では人々はみんな兄弟のやうに親しく、土地はみんなの財産になつてゐるんですつて……妾そのことを聞いて、その國は、妾が度々夢見た平等と、自由の國じやないかと思ひましたわ、……

アルベルト　貴女はそんなことを夢見たことがあるんですか？

アダー　（目でも覺めたやうに）エ、あります、――隨分前に……不思議な都、永久に平和な國、……其處では、勞働は、凡ゆる幸福の母であり、自由は最高の法律であり、愛は人間同志の唯一の羈絆であり、科學と藝術は、人々の共有財産で、又、女は奴隷でなく、男と同權だつたのです。

アルベルト　アダーさん、貴女の國は、何んと立派な國でせう！　僕は貴女のお話を聞いて復活つたような氣がします……その巡禮と云ふ方は何處に居るんです？　僕等もその巡禮について行きたい。

アダー　その人はもう一度此處へ來る筈です。だけどお母様は如何なさいます？

アルベルト　母？　母は自分でどうにかするでせう……

アダー　それぢや遺産は？

アルベラト　（身震ひして）見るのも厭です。

アター　道は遠いのですよ！　あなた恐くありませんか！山を越え、河や海を渡らなければならないのです。妾達の着物は荊棘でボロボロになるでせう、妾達の身體は斑だらけになるでせう、燃える様な夏の陽は、妾達の顔を黒焼けにし、冬の吹雪は妾達の足跡を消してしまふでせう……

アルベルト　（狂氣のやうに）恐くない、ちつとも恐くない、僕は戰ひを想つてゐる。僕達はきつと、美しい自由と平等の國に達することが出來る。

第八場

百姓家より、アダーの父のしわがれ聲が聞える。

（老人が家の中で叫ぶ、アダー　アダー！）

アダー　（平然として）何か御用ですか？　お父さん！

老人　（尙ほ家の中で）お前は何時まで庭に居るんだ！……

アダー　家の中は息苦しくて暗いぢやありませんか？……

老人　（鍬と鋤とを手にして家から出て來る）年寄りに向つて何んと云ふ口のきゝ方だ……（アルベルトの居るのに氣がついて急に悄げたやうに）これは旦那樣、誠に濟みませんでした。俺あなた樣が此處に居らつしやらうとは思ひませんでした。……（帽子をとつて農具の上に乘せ）お早う御座居ます。

アルベルト　何卒共儘、何卒、あなたは立派な勞働者のジュジエプペさんでしたね、そんなに御遠慮なさらないで下さい。

アダー　この人にそんなことおしやつたつて、馬の耳に念佛ですよ。

老人　（叱るやうに）何んだつて？　俺お前の樣なあばずれとは違ふよ。

アダー　お父さん！　妾があばずれですつて、妾は貴方とは人間がちよつと違ひますよ。

老人　勿論お前は新らしい女よ、隣近所でよくさう言つてるよ。飛んだ百姓娘だ。お前の氣持は、俺等には全く合點が行かないよ。

アルベルト　そりやそうでせう！　あなた方のやうな暗闇の中に生活してゐる人には全く不思議でせう！　アダーさんは新世界の言葉を使つてゐるんですから……

老人　（不平らしく）新世界の言葉だつて（農具に手をやり）もうこの上お前等と話す必要はねえ……

アルベルト　あなたは何處に行くんです？

老人　何處だつて、きまつてらあ、畑に行くのさ。

アルベルト　今日はメーデーですよ。

アダー　妾もさう言つたのよ、でもまるで役に立たないの、何んでもいゝから働きたいんですつて！……

老人　今日に限つて何故働かんでもいゝんだい？　人間は働く爲めに生れて來たんぢやないか！……

アルベルト　生きるためです！……ジュジエップペさん、生きるためですよ。勞働はとにかく必要なものです。然し現在の勞働は、多くの人々にとつて呪ふべきものになつてゐます……

アダー　今日は全世界の勞働者の祭日だと云ふことを、世の中の怠け者に知らせてやる必要がありますねえ……

老人　それは今日を祝福せよつて云ふことかい？

アダー　兄弟等の解放のために逞しい腕を伸ばしてゐるばかりでなく、彼等は勞働者のために唯一の頑丈な鎖を作らうとしてゐる。……五月一日――それは幾度か血塗の戰ひを繰返した後で、最後に人々が人類の自由と解放とのために戰はふとする記念す可き日です。五月は永久の若者です。さうして妾達に、人間の勞働が祝福される時期が到來しつゝあると云ふ信念を與へるでせう！

アルベルト　アダーさん、貴女は全く自由の女神だ！

アダー　自由……

老人　まあ兎に角家の畑で二三ケ月働いて見るがいゝ。嫌になつたら一年ばかり其處へ行つて來るさ。

アダー　畑に出るんですつて？　妾眞平です！

老人　（すつかり怒つて）なんだと！　貴様見たい奴には用ない、出て行け！

アダー　有難いこと……以前からの望みでしたよ。だけど畑なんかに行くんぢやありませんよ……（戰慄して）オ！　妾は畑で、青白い顔をして、傴僂の樣になつて働いてゐる哀れな女を見ました。……汚い腐つた水が唇にくつゝいたり、水蛭に足を嚙れたり、炎天に黑燒げになつたり……妾は又、百姓女等が瘦せこけて……時には梅毒なんかを背負つて村に歸つて來るのも見ました。

アルベルト　（兩手で顔を覆つて）厭だ！　恐しい！……

アダー　妾は勞働が生きるために必要だと云ふことを知つてゐます。（狂氣したやうに）だけど、少し許りの金に、朝から晩までせつせと働くことが眞の勞働でせうか？　妾は女です、妾の胸は、斯んなことを考へるだけでもう張り裂けさうです。女を侮蔑する國民位い哀れなものはありません。お父さん！　兎に角妾はあなたは服從ことは出來ません。あなたには人間の惡事を識別るだけの智識がないのです。妾は尊い處女時代の微笑を、濁池に投げ棄てたくはありません。妾の燃えてゐる血を（嚇すやうに）畑や、貴族の庭園の水蛭なんかに吸はせたくはありません。妾は女も奴隸でなく、貧乏人も居ない、人間の尊嚴も汚されない、貧乏人も金持もない國へ行きます。その國では、若者は祝福され、總ての母は幸福であり、愛情は濃かなのです。

アルベルト　（夢から覺めた樣に）美しい國、オ！　美しい神秘な國！

アダー　（身構へでもする樣に）あの人が歸つて來た樣だ、妾は聞いて見やう！……

アルベルト　（感激して）誰れです、誰れなんです？

アダー　巡禮です！

編輯後記

奥 むめお

「婦人運動」の編輯がこの頃又、おくれ勝ちになりました。私の全部的な責任なんだけれど、金子をもたないでかういふ仕事をつゞけてゆくといふ上には、かなり豫算以外の煩はしさがあるものなんです。

大金もつて職業婦人社へ加勢に來てくれる福の神はないものかなあ、私は貧んだ春空を仰いで長嘆息をするのでした。

×

女々しいケチ〳〵した感情は押しつぶしてやりませう。大いに進出して伸びてゆきませう。

この頃「婦人運動」がよくなつたと云つて、私の手柄ででもある樣に方々で賞められます。みんな遠くから近くから、これを守り育てゝゐて下さる讀者諸氏のお力に依るものであるのに。

×

職業婦人社の仕事のために適任の助手を今一人ほしいと思つて東京で大分探しました。二十歳前後の若い人たちに大分會ひました。

そして思つたことは、案外二十歳前後の若い近頃の娘さんが知識的でないといふことでした。むさぼりつくす樣な求知心、社會的に伸びてゆかうとする潑溂たるところがほんとうにないでありませんか。

私たちの催す會合へ出てゐらつしやるほどの人は、打てばひびく樣な社會的感受性を多分に持つてゐられるし、時事問題についても常に多少の關心をもつてゐられるのが一般ですのに、さうとすれば、私はこれでも婦人層の餘程尖端にある進んだお友だちばかりとつき合つてゐるわけになるかなと感慨に堪えなかつた次第であります。

×

從來の學校教育がまづ一番いけない。そして社會がなほ婦人を惡くする。因循にする。やつぱり婦人自身の發奮で、一人でゐても絶えず向上するやうに進取的であり度一人でゐると引ずり落されさうであつたら婦人同志協力して互ひに引き上げ合つてゆきたい。婦人の職業も私は、さういふ意味で婦人たちに働いて食べてゆける自信を强めるために、社會と自分とのつながりを知

△筆者御紹介▽

馬島久子氏

兒童保護問題研究のために渡佛され、三年ののち各先進國の保護施設をみて歸られたばかりです。今度東京市會議員に無産派から當選された馬島僴氏令妹。

赤松常子氏

日本勞働總同盟の婦人部の仕事をずつとしてゐられます。非常に地味だけれど、寢ても起きてもこの困難な仕事のためにつくしてゐられる方。

前田繁一氏

東京朝日新聞社の經濟部の方。わかり易く經濟問題の解說をなさる方として、斯界の第一人者です。

川越丈雄氏

前號の經濟講話をかいてゐられる同氏は大藏省豫算決算課長です。

らしめるためにうまく活かしてゆかなくちやいけないと思ひます。

×

子供の教育についても私は近頃痛切にさう思ふのです。從來のやうに母親一人の愛撫に甘へてゐるやうな子を育てゝはならない。

その代り、よく子供をいたはり、子供を伸ばす樣に環境を――即ち子供や私たちの住む社會をよく耕して滋味あらしめなくてはならないと。母としての私たちが特に社會改造の問題に無關心でゐていけない點はこゝにあると信ずるのであります。

私たちの仕事が少しでも、さういふ目的のために役に立つものでありたい、これが私の願望であります。

×

今月のおたよりに村山さんが少しゝ書いてゐないことは淋しいことですね、ずつと困難な職業婦人社の仕事の大部分を一人できりまわして、身分不相應なムリをつゞけて來たものですからきつとそのムリが祟つたんだろうと思ひます。

近頃帽子の庇から目ばかりキョロ〳〵させて、蒼しなびた顔をして事務所へやつて來ますが、本人は氣晴らしのつもりらしいけれど「やい、ウラナリー」「神經衰弱癥」などと小つぴどくからかはれるものですから、一層口惡くケン〳〵して來ます。

どうぞみなさん、見舞つてやつて下さい。一喝くらはしてやつて下さい。

誌代切れについて

大分誌代が切れてゐる方が出來ました。どうぞお送り下さい。全て前納にして下さると非常に働き易いので、ぜひさう願ひたうございます。

なほ、あなたの友人たちに、もつと本誌をすゝめて下さい。見本用としての會報はいくらでも送ります。

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部　貳拾五錢（郵税一錢）
半年分　壹圓四十錢
壹年分　貳圓八十錢

送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和四年四月廿一日　納本
昭和四年五月一日　發行

發行編輯兼印刷者　東京市牛込區市ケ谷本村町四　村山文子
印刷所　東京市神田區淡路町二ノ三　協書社
發行所　東京市牛込區市ケ谷本村町四　職業婦人社
振替東京六四一六〇番

大正十三年十一月二十二日　第三種郵便物認可
昭和四年四月三十日　印刷納本
昭和四年五月一日發行（毎月一回・一日發行）

婦人運動　第七卷　第五號　定價二十五錢

昭和四年五月一日印刷發行
大正十三年十一月廿二日第三種郵便物認可（每月一回一日發行）
『婦人運動』第七卷第五號（附錄三號）
編輯兼印刷人 村山文子



―メーデーの歌―

聞け萬國の勞働者
とゞろき渡るメーデーの
示威者に起る足どりと
未來を告ぐる鬨の聲

×

汝の部署を抛棄せよ
汝の價値に目醒むべし
全一日の休業は
社會の虚僞を撃つものぞ

×

ながき搾取に悩みたる
無產の民よ蹶起せよ
今や二十四時間の
階級戰は來りたり

×

起て勞働者、ふるひ起て
奪ひ去られし生產を
正義の手もて取り返へせ
彼等の力、何ものぞ

×

我等の歩武の先頭に
かゝげられたる自由旗を
守れメーデー勞働者
守れメーデー勞働者

ゴシップ

テコでも

平田ノブさんは元氣な人ねと感心をすると、奥さんはフヽンと鼻で笑つて云ふ。

「元氣な時にしか出て來ないんだから、元氣に見えるんです。しよげた日には、テコでもあの人は出て來ませんよ。どんなに不義理な破目におらうと、電報で呼出しをかけやうと。元氣な日とどつちが多いんだつてソ…それあしよげ返つてゐる方がずつと多い！」

紙張子

五月雨（さみだれ）に梅雨（つゆ）と雨の氣節が近づいたのですが心配なのは、事務所の鎭守の神様鈴木千代子さんが、悶死してしまはないかといふこと。

といふわけは、鈴木さんは曇つた日、雨の日にはいつもの長廣舌にも似合はず、ひつそり閑とふさぎ込んでしまふので、ニックネームして曰く紙張子、氣象臺。

仙人

震災直後時代の「婦人運動」に協力してゐられたといふ栗原さんが漂然と戻つて來て曰ふ、「私達夫婦は生活難のない様に、仙人になる修業を積んだんだけれど、草ばつかり食ふといふ事が中々六ケしいものね、それに、さかなが幾日も〳〵かゝらない日があるんですもの。」

横から口の惡いのが「かすみを吸うて腹のふくれる發明をなされればよかつたのに――」



丸岡ひで

現代の社會的關係の結果として女は總ての點で結婚を目的として作られて居る者のやうに思はれてゐます。のみならず女自身、すでに結婚を唯一の目的として行動してゐる樣に思はれます。甚だしくは教育さへそれを目的としてされてゐる場合をよく見聞きします。それならかうして結婚する娘さんの多くが果して自分をよりよく理解し、自己の才能を伸し、外界の思想にも觸れさせてくれる樣な夫を得て幸福な生活が出來るかどうか。その多くは男子の奴隷となつて家事の爲めに人生に對する愛さへも感じないで終るのではありますまいか。併しながら、いくらそれを否難した所で經濟的に何等獨立してゐない女子である以上、何は兎もあれ、生活の手段として結婚といふ安住

味噌汁をおいしく作る心得　味噌を水又は湯にて溶き、必ず沸騰してから野菜を入れる。野菜が柔かく煮へたら、沸騰せぬ程度の温度にて、ツマリ材料の煮へ安きは暫時、煮へがたきは比較的長く、數分乃至二三十分煮るのです。かつをぶしは、食する二三分前に入れるとよい味が出ます。即ち

一、野菜の煮へる迄沸騰させ、すぐ火を弱める

娘――

「この人なら收入も充分だし男ぶつりだつて恥かしくないし。

母――

「お前の婿さんにはすぎものだよ」



これは野菜の味と味噌の味とを互にナジマセて味をよくする爲めである。

二、食する前ダシを入れるのは、味が汁の中に丈け出て野菜に迄は行き渡らぬ中食する方がうまい爲めです。

三、味噌汁をさまして、度々煮返してはおいしくありません。出來る丈け食する迄同温度にたもつ事。

友のたより

山口きみ子氏――(長野より)

その後私も、おかげ樣で何の變りもなく、丈夫で工場の働きをつゞけてゐますが、相變らず生活的な苦惱から離れることはどうしても出來ません。私共現在の農民の前途には、果して何があるのでせうか。世の不景氣に見まはれて悲慘極まる百姓の生活と、牛馬に等しい勞働があるばかりでありませんでせうか。

ましてや、婦人である母親は、想像以上のひどい働きに、自分の子供すら完全に育てゝゆく能力も理解ももつてゐないのです。そして、もつとひどいのは、若い私たち娘の生活です。むざんにも、因襲的な道德に支配され、自分の生命がどこに向つて伸びてゆくのかさへ、考へてみることが出來ないのです。

かうして灰色の運命に閉された農村は、何と不幸でせう。ですから農村の生活が悲慘であればある程工場に働く娘が多くなるのですが、工場主の利益からばかり算段された甘言も、さして苦でない程、今日の百姓の生活の實際はもつと餘裕なく、みじめなものです。工女を救ふためには、まづその出身地であるところの農村を救はなくつては駄目です。

別便で購讀者を一人御紹介します。三月號より配本して下さい。私とは二つ上の二十三ですり小學校を卒業してから、ずつと工場にゐられる同志です。

佐々木とみ氏――(埼玉より)

地を一日も早く得ねばならぬのは事實であります。

そこへ行くと自分に經濟的獨立力を持つてゐる職業婦人は力强い者です。かういふ婦人にしつかりした結婚觀を持つて貰ふ事が大切な事だと思ひます。

それならどう考へるかと云ふにさうした婦人は經濟的に獨立力を持つてゐるのですから決して結婚をあせる必要はなくむしろその間に、自己の道を開拓し、自己を築き上げる事に努力し勉强すべきだと思ひます。さうしてゐて若しその道程に於いて自己を本當によく理解してくれる人があつたならば、そして又その人と共同生活する事に依つてお互ひの生命を燃え上らせ、その事に依つて自己を完全に伸し得る確信がついた時に初めて結婚すべきでありませう。其處にこそ本當の愛があり、努力があり、責任があり、忍耐がありはしますまいか。又、それが結局男子に正しい婦人觀を持たせる事になり延いては婦人の地位を向上させる重大な力となりはしますまいか。

◇例外 ほし大根、わかめ、ほしづいき、など乾物は、煮立たゝぬ中に入れ、餘り煮立てぬ方よし。生づいきも煮立たぬ中に入れぬとエガラキものなり。

あさり、しじみ、はまぐりなどの貝類も、煮立たゝぬ中に入れ、煮立ちて口あきたらスグ温度を下げ暫時にて食す。長く煮たり、長く煮立てゝは味わるし。

母――「それに、今どき珍しく大の親孝行だつていふ評判だよ」

娘――「ヘッ――親がある人なの？」



◇野菜の組合せ方と又其分量 にて味のよしあしあり。

○野菜は一種より、二種三種の方よし、日々少しく注意して研究すれば自ら會得す。

○例へば大根の線切に里芋。大根と里芋との組合せは味よろし。

○かぶは、かぶ丈けよりも、其葉を共に加へたる方味よく、ほうれん草には油揚少量加へたる方よし。（私どもの會、德江道世氏談）

婦人運動はおひ〲よくなりまして、洵に嬉しく、その勢ひで讀者もふやしてゆきたいものでございますね。小學校を出たばかりの私には解りにくいところも多いのですが、兄さんと二人がゝりであます所なく拜見いたします。私の村にも、かういふ雜誌を讀んで村のために働いてくれる樣な熱心な友人がほしいと思ひます。一番多く讀者のゐる農村はどこでせうか。

須藤京子氏――（靜岡より）

……（前略）御誌は、逆境に苦しむ人貧乏な人により多くの味方となり、共鳴されるものとみえます。然し、おひ〲と同じ心もちの友を全國的に集めてゆけることは、何よりの喜びですね。先日處女會の集りで快く充たして下さつた募金袋も、別封二十袋だけとり敢えずお送りします。（あと、未だ出來る見込）

ところで、こゝに突然の首切り策がこの學年末を機として行はれました。勝手に退職願ひを拵へておいて捺印を迫るといふ有樣、その理由があまりにコッケイすぎて、此方が面喰つてしまひました。

一、南蠻人の服裝（手製の洋服）は村の人に脅威を感ぜしめる。

一、情實を解せぬ者は、當然解する者と任せぬよそもの（他國出身）は凡ゆる點で損だといふこと。

私は腹も立てないで、嗤つて捺印せざるをえませんでしたが、何となく氣がすまなかつたので縣の學務部長あてに一筆送つておきました。切られた首が繋がる見込はなくとも、斯うした事實を默つておくのは、よい機會をとり逃すも

忙中閑話

奥むめお

私から、きびしい米の催促が矢次ぎ早にゆくものだから、黒田さんは――私の一家及び職業婦人社は埼玉縣の高橋――さんからお米を貰つてゐるのですが、その取次ぎを廣田屋の黒田さんがして下さつてゐます。

「ソラ、また初まつた。」と云はぬばかりに次のやうに皮肉にもあつさりした返事をハガキに書きよ越しました。

「お米はとうの昔直通のトラックで送りましたよ。

假りに啄木の歌に眞似て云ふなら、さしづめこんな歌になるかも知れません。

一俵の米を貯へ
豊かなりと
君が悲しき
春の便りかな」

×

私に一人の惡友があります。自分が淋しくなつたり、お客のお接待の種切れになつたりすると、きつと私を呼出しに來るのです。電話をかけて來て、例へば

「もし〳〵、鄕里から珍しいお客さんが來たんだが、遊びに來て呉れない？」

或ひは自動車に托した誘惑狀に曰く、

「この車に乘つてすぐ來て下され度、來なかつたら今後斷然絶交と覺悟おきめなさるべく候。」

それだけなら我慢もなるのですが甚だ我慢がならないのは、私が、忙しい生活のひまを盗んでやつと子供たちと團かな夜を樂しんでゐる時さういふ風に誘ひ出しておき乍ら、友人たちに紹介するのに次のやうに云ふのです。

「こんなに忙しい婦人も珍らしいね。まるで月給とりにでも出てゐる樣に大抵晝の内はルスなんだが、それでゐて月給どころか、貧乏神の火の車の運轉手らしいぜ。」

のと考へて、平案の學園の空氣も書き添へておきました。

失職者は、都會ばかりの特產でないばかりかかういふ淸々では土地 に適はしい取引きが行はれてゐます。

相原みのる氏――(宮城より)

去年の婦人運動よりも、ずつと〳〵今年のは充實してまゐりましたのね、お世辭ではなしに三月號はとくに私のためになりました。四月號の「個人愛に溺れやうとしつゝ……」は、私も常にあの作者の苦しみに似た、苦しみをなめてゐる故殊更身にしみました。一人ぼつちの母！ 繼母として、餘りにも惠まれなかつた母！ 平凡に母と共に生きてゆく事が、母を喜ばせることなら、私は一切を捨てゝさうしやうと思ふのです。

でも又一方、世の中の不合理な虐げに泣く階級のために、敢然と立つて闘つてゆかうといふ赤い燃ゆるやうな心にもなります。二つとも私の眞當の心なのです。

不合理な世の中を、なるべく合理的にしてゆく。例へそれは近い將來に實現されなくも、さうした强い信念のもとに、それに沒頭してゆける方を美しいと思ひます。

私も……と、さう思ひます。世の不合理を見きゝ、それに會ふ每に私の强い反抗心がむらとわきます。すべてを投げすてゝと思ひますでも……と、外の私の心が呟きます。「將來さうした理想に近い世が來るにしても、もうその時は私の母は居ないのだ。母を一人孤獨の中に死なせたその「悔ひ」は私の生さる限り私の胸

◀問　答　欄▶

【問】婦人の讀みものとして、いゝものはどれでせう。發行所と定價も敎へて下さい。(東京芳子)

【答】現在賣られてゐるいはゆる婦人雜誌は、勤め人の妻君として毎日お化粧と留守番の外に用事のない有閑奥様を目やすにして作つてゐるのだらうと思ひます。汗を流して働く婦人、安い月給で、こき使はれてゐる職業婦人、つましい家計の主婦及びつねに知識を求める一般の婦人などは、もつと健實で內容の充實した進歩的な讀み物をよんでほしいものですといつて、推奬するに足るほど理想的なものは、ほんとうに少ないのですが、やゝ近いものとしてたとへば、

◇婦　　選　　月刊一部拾錢

婦選獲得同盟の機關紙ですが、婦人に參政權運動の實際を知らせるため親切な編輯がされてゐます。(麴町區四丁目五婦選同盟發行)

◇家　の　光　　月刊一部二十錢

産業組合中央會で發行してゐる家庭向きの雜誌です。婦人の社會的敎育、産業組合主義の普及のためには、地味ではあるが傳ること の出來ぬ貢献をつゞけてゐます。(牛込區揚場町産業組合中央會發行)

◇婦　　人　　月刊一部拾錢

全關西婦人聯合の機關誌ですが、各地の婦人團體の活動狀況がつねに委しく報道せられてゐる上に、先進諸國の思潮も拔からずとり入れてあります。(大阪市中ノ島、大阪朝日新聞社發行)

◇婦女新聞　　週刊一部十二錢

婦人のための週刊新聞としては讀みごたへのあるものです。二十六年の歷史をもつてゐます。(東京淀橋角筈、婦女新聞社發行)

◇婦人毎日新聞　日刊月額五〇錢

唯一の婦人日刊新聞です。未だ生れたばかりですが、よく育つて行つてほしいと希はれます。(日本橋區日本橋ビル內、婦人毎日新聞社發行)

◇婦人運動　　月刊一部二十五錢

微力な婦人の手で發行されてるのですから、婦人側の支持が强ければ强いほど、いゝ雜誌になるわけです。廣く婦人問題に興味をもつ人々に讀ませたい雜誌です。(牛込區本村町四職業婦人社發行)

◇勞働婦人　　月刊一部二十錢

勞働總同盟の婦人部の機關紙ですが、女工さんにおすゝめします。解り易くて、而も、階級的な强い流れを底にしつかり持つてゐる雜誌。(芝區三田四國町、勞働總同盟發行)

を嚙みさいなむであらう。私がさうした運動に投ずることは意義あることでゝ、それによつて私の母は少しも幸にはならないのだ。老ひた母の不幸はどうすることも出來ないのだ。理想に近い世がくるにしても、もうその頃は母は居ないのだから。と。

利己主義者とお笑ひになるでせうけれど、私の眞當の呟きです、あの個人愛云々といふのを讀んで私も同感でしたので、こんなことを書いてしまひました。又お會ひする日をたのしみに御身御大切に。袋はなるべく集める考へです。

杉山幸子氏――(東京)より

――(前略)いろ〳〵な意味で逸の惡い私は一人で店と奥と、母の務めと三つの働きに弱い乍らも丈夫で働いてゐますから御安心下さい。

只今問題になつてゐる瓦斯値下げ運動は、私も共にお手傳ひしたい一人です。自分の家でも瓦斯は使つてゐますし。良人がつまらないことであの會社をやめさせられた事情もあり、會社の內容は幾分知つてゐる積りです。殊に私たち發所の神々は直接關係の深い燃料のことですもの、例へは近い話で、燃料が高いものですから煮豆なんか家で煮ないで他人の拵へた不衞生なものを口に入れるやうになつてしまひます。

それに、第一あの會社の重役たちのふところに入る儲けは大分大きいものですね。

それから、小賣商人の生活は誰も書かないので私も知りませんでしたが、自分で店に坐つてみると、俸給時代とはちがつた空氣のフラ〳〵生活ですよ。小僧さんもゐず忙しいものですからゆつくり書け ませんがいづれ小商人哲學でも書いてお目にかけませう。



婦業婦人の家

募金報告

（４）

瀬口眞次郎、荒尾裕之進、宮崎ひさ子、森政市大迎左文、原口良雄、酒井、鈴木、中山讃治、齋藤勗、奥野祥子、石澤チエ、茂原茂、石戸晋一堂平福雄、羽田晃、井上八郎、木村靜子、妹尾四世、近藤章子、富田多藏、橋丈一、小河原藤壽、千原多喜子、渡邊ツネ、平群恒春、井上修二、宗行ひさゑ、京都市立堀川高女(一五、五)阿部安(二)佐々木吉治、遠藤丹治、佐藤長、芳賀ふくよ、笹森貢、岸浪光夫、平塚みつ子、早川一郎、飯島春子、神前ゑだ、織田ヒデ、有山さと、木村ゆき、武藤ふき、齋藤まさ、丸山とき、和田よし、河野たか、清水ほの子、吉成くり、岩瀬きく、北崎もと、廣瀬とわ、雨角けさゑ、下田たけ、里塚ちさ、梅原さよ、山崎みどり、立川すみ、辻千代、坂本千代、能登やすゑ、山川すみ、岩瀬つや、石川こと、岩瀬松枝、竹田きよ、鈴木よし、渡邊あさの、松平みち、古野はな、和田みと、澤邊なほ、糸井八重、井戸よしゑ、木村しづの、寺岡くに、塚原あつの、下原すみ江、三浦やゑ、三浦あさ、三浦たま、德江氏扱ひ(八)相原みのる(三)荒井儀一、吉田久、松鄕作次郎、川瀬きぬ、中崎八重子、小川靜子、五艘君枝、加藤とみ、野水しづ、高野勝太郎、林喜太郎、宮島ふさ、前川きくゑ、松本勝太郎、烏村チカ、山田あや、中川元治、鳴海愛子(四)京都府立第二高女(二〇)糸川魚高女(五)齋藤さわ子、德井うめ子(一五)森寛子、長尾半平氏夫人(二)石塚英藏氏夫人(二)吉田亨氏夫人(二)末永博士夫人(二、五)福井まつ子、横山みつ子、山內ちし子、三ツ木秀雄、遠藤夫人赤井夫人、持地ゑい子(五)繁田武平(一〇)小島芙、橋木京、野村せい、狹間藏定、關口とね子、狹間をの、鈴木シゲ、杉田きん、石田みや、關口まき、篠崎千代子、小林とみゑ、神山惠喜、淺見秋子、山岸トリ、清水はる、繁田君子、白橋はる子、池田婦美子、江原りう、金子ゑい子、中村イト、山畑みよ、志村シゲ、內村カメ、須田サダ、粕谷イノ子、淺見みつ、野村直子、堀口ちの、桑田源次、野村精、田中ハル、山畑ひさ、中村シゲ子、大野いね、石川つめ、齋藤とう、近藤喜代、橋本いと、齋藤千代、小澤みね、木橋壽美子、中林いと、加藤はる、友野武平、野村平吉、杉田ふく、神山しか、瀧澤ひろ、川上タカ、西村ツネ、新井サダ古谷シゲ子、友野喜美子、中村ナカ、繁田武平、諸井とり、增田喜一、淵泉良、岡上光子、鎌田とデ、繁田春子、古川とよ、砂長彥四郎、清水清、小澤よし、忍足とよ、新井綾、關口なを、新井かね、元島富子、中村さい、山川初江、野村はま、田中清子、石川きよ、茂手木政、關根さと子、川口まち、市村ふさ、小林春子、兵庫縣柏原高女(一五)山下タカコ、本澤清一、谷猪之助、阿川クラ、有馬幸子、長尾清子、松村淺之、柿原まち子、齋藤英太郎、境とみゑ、山口伍助、山田正悅、芳賀直雄、赤平きゑ、山田玉枝、館山きみ、宮田喜太郎、幽榮一、作家清子、大島尙雄、田中重男、古谷庫之助、秋月喜代子、渡邊惣藏、坂口ヒロ子、本島百合子、村原吉勝、內田一雄、越部千代子、埼玉田鶴、飯田誠治、本烏荻子、田中野狐禪、富田喜美代、高橋信子、疋田まき、大津久子、戸塚俊一、岡三郎、金田松三郎、內田勇助、千田澄江、谷川とめ、西尾きみ、渡邊曉子、原田一郎、三浦祐次郎、小瀬川トキ子、大森チセ子、田中館タカ子浦萬之丞、金澤コツ子、廣瀬スギ子、邊見德太郎、石森、菅野正之助、柏平トメ、中村きく子、安達サイ子、瀧田可津、笠原靜子、平林善四郎、伊射きん子、上野卓次、久保小三郎、石森甚吉、石川、佐藤友江、石田才治、小林、田中よし子、菅トメノ、島川忠義、金枝俊、中村新根子、國分合子、立松ツル、横田きくゑ、伊地智みき子(五)岩倉直子(二、五)岩倉裕子(二、五)岩城ふみ、河西は

つ、松永清子、長谷川千代子、新田誠子、吉田婦美、加藤カクヨ、黒瀬米子、入江と代、岩井あさ、多羅尾光道(二、五)原田久子、原田直彦、高橋なほ子、原田直行、原田教子、原田保子、原田光子、丸山義昭、丸山乙女、丸山月子、山田耕三郎(五)花澤草子、小川菜、水野愛子、西村秀臣、松井、大沼法、上田、相川、藤井辰三、高木、小林のぶ子(〇、五)古宮春子(〇、五)高松まみ子、中島千代子、三村靜代、西岡牧美、山田豊作、丸山郁、野村春樹(二)溝部雅子(四)楠吉野(四) 永江梢(三)樂(二)永江孝子、的場孝吉、尾高義枝、土子登久子、芙木悦、柴山勝代、秋山昭子、秋山千代、大木服部末子(八)内田勇助、木村靜枝、川岸字乃、小澤美代、小山田すゑ、谷田チトセ、小林偵、福田ふめ、山岐嘉子(五) 戸野みちゑ(六) 富田要子(五)十文字こと(五)伊勢よね、向井琴柱、赤江米子、吉原はつ子(一〇)好村春基、關藤群照、關藤玲子、關藤さを、好村久子、山の井明子、山の井濟天、德丸ナラヱ、山の井歌子、楠保、高橋亨子、田中義信、田中典子、田中順子、山田四郎、鈴木愼悟、森山忠昔、村山庸矢郎、堀の內虎友、和田信子、北島しま(五)橋本俊治、植松だい子、鄕つね子、藤原薇、白井つる、土屋まつ江、山田ふみえ、浦賀屋、市川みすえ、工藤照子、土屋はつ子、松木はな、成生商店、米山濟香、鈴木秀子、平田ふさ、中村ゑい、山下靜枝、佐野まつ、土屋よし、鈴木しやう、渡邊せん、山下まつ、豊長よね、廣井れつ子(五)豊田まつ子(三)川上重乃、鎌田菜、無名氏(一〇) 吉川君子、松田妙、稻本きく、和久本あい子、山下愛子、三上みちえ、阪井八重、平野くり、義元よし(三) 竹川りん、多田よし、齋藤君、鈴木秀、花岡讓、吉永もと、北川まつえ、北川忠一、無名氏(五) 吉川つる子、前田勇子、桶川ハルヱ、丸山秀、金田しづ子、和田きみ、濱田たづ子、鶴田一枝、森下智子、桝本三重、桝本定藏、池田まつ、小松川吉野、恩田一平、奥山敏、畑とう、平塚信行、森川邦雄、村田幸(五) 平山初、齋藤菜、濱田妙子、君島氏、高橋芳枝、長島のぶ、平島辛、富田一枝、橋本八重(二)越中島さわ、佐野もも子、河上稻、高田菊子、高橋さつ、竹田こう、高田孝子、阪本あき子、阪本主殿、賀川濱枝、堺多賀枝、藪田はつ、飛島惣藏、塙英一、松田菊枝、齋賀みち、齋藤かづ子、橋本きく、廣田千鶴、尾本のり(五)福田信子、北川八重子、平林くり、村野學、菊川菜加藤千賀、畑菜、鈴木八千代、土居のぶ枝、福島定、福島ヘル、松本まさ、正木福(三) 正木太郎(二) 竹田あい子、花田さかえ、延島武彦、竹田久志(七、五)瓜生聰二(五)小池省三郎(五)淸水末治(五) 前田勇(五)小山淸藏(五)河合信義(五) 丸谷隆章(五)村上新太郎(五)堀川紫雄(五)北孝範(五) 木村孝(五)魚谷一榮(五)林田桁(五)阪井濟子(五) 高橋千代子(五) 中島淳一(一〇)小森初子(二、五) 下村君惠(一〇)盛岡多賀子(一〇)坪井くに(三) 田上かの(二)堀江かどえ(五)鳥居こう(一〇)

以上の諸氏。(便宜のため、二圓以下の現金は袋の口數にあはせて記入しておきました故、右お含みおき下さいませ)

次に三圓以上の現金を寄附せられた方々

五圓 鶴田かつ子氏　二〇圓 野口授太郎氏
三圓 田中惣五郎氏　五圓 三島章逍氏
五圓 藤井久市氏　五圓 土岐一意氏
一〇圓 菊池寛氏　一〇圓 松宮三郎氏
一〇〇圓 千葉とみ子氏　一〇〇圓 黒田良助氏
五圓 竹林久榮氏　五圓 鈴木喜代子氏
一〇〇圓 逸名氏　五圓 野尻市子氏
五圓 河野年來氏　五圓 志賀菊枝氏
三圓 豊田りん子氏　一〇圓 長澤則彦氏
一〇圓 中村洋服店　一〇〇圓 岩崎すみ子氏
五圓 高群逸枝氏　五圓 岡きよ子氏
五圓 野尻菜氏　五圓 大塚勇氏
五圓 井上三保子氏　五圓 太田氏
三圓 德井うめの氏　五圓 佐々木次子氏
八〇圓 吉川まさ子氏　一〇圓 金子松子氏

(以下次號)



募金袋の追加申込が續々來るので發送に忙しい。たくさんの共鳴者に依つて家の基金が積立てられる力強さ。

◇埼玉縣北吉見處女會

岩窟ホテルで有名な北吉見村へゆきましたが、彼地の青年團處女會は、恩田會長に引立てられて伸びつゝあります。屢ば洪水にみまはれるこの貧乏村では、その町村の樣に易々と文化運動をすることが出來ぬために、御苦心は二倍あるやうにみえました。

青年團では新聞の早朝配達を實行してゐます。取次店を通じてゐた頃は午後にしか手にすることが出來なかつた東京の新聞を、曉方早く自轉車で驛までとりに行つて、各自の分擔區域を一さいに配つてしまふのださうです。處女會もすでに運動シャツやパンツその他の共同製作、運動會や總會のときのべんたう賣出しなど着々と働いてゐられる樣ですが、もつと團體精神を固めて組合運動を盛んにしたいと、しきりに云つてゐられました。

◇職業婦人協會

四月例會を神田の一ツ橋教育會館でしました。集まる人が多いのに事務所が狹いものだから會場費を出してよその部屋をかりました。早く自分たちの「家」を建てたい。

私は現在の職業婦人問題を中心にして「婦人問題の諸相」に就いて話をしました。あとで、別記のやうに協會の組織を固めました。(奥)

◇職業婦人協會の進出

こんど職業婦人協會は、次のやうに組織立てて、しつかりと實際運動に入ることになりました。

一、共濟部(代理部を兼ね)　主任　佐野氏

協會で取扱ふ雜貨を各自が買ふのは勿論ですが、出來るだけ同僚にもすゝめて剩餘金を共濟部の資金に積立てることに申合せました。

一、職業相談部　主任　奥　氏

一般職業相談に應ずる一方、求人求職のあつせんもします。一般の紹介所と違ひ、確實な人を責任を以てお世話する長所があります。

一、調査部　主任　村山氏

一、法律相談部　主任　赤松氏

一、醫療相談部　主任　馬島氏

病傷の場合や健康相談、産見調節その他の問題について、協會の會員は特に懇切に實費(又は無料)で診療して貰ふ樣信用ある病院と契約が出來ました。

一、事業部　主任　奥　氏

一、會計　主任　細川氏

一、顧問　石井滿氏、片山哲氏、吉岡彌生氏、北岡壽逸氏、正田淑子氏。

昭和四年四月廿八日印刷納本　昭和四年五月一日發行
大正十三年十一月廿二日第三種郵便物認可
婦人運動　第七巻第五號(附錄)
編輯發行兼印刷人　東京牛込區本村町四

復刻版　婦人運動　第3回配本
（第11巻～第15巻）

1990年12月25日　発行

本体揃価格　50,000円

発行者　船橋　治

発行所　不二出版(株)

東京都文京区向丘1-2-12

〒113　☎03(812)4433

印刷所　三進社

製本所　吉田製本工房

中性紙使用

乱丁・落丁はお取り替えいたします